

鹿児島大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.17

2017

鹿児島大学総合研究博物館

The Kagoshima University Museum

鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.17

2017



鹿児島大学総合研究博物館
The Kagoshima University Museum

中表紙
Berau の森

年報 No.17 目次

1	総合研究博物館の組織－ 2017 年度－	福元しげ子	(1)
	館長 研究部 運営委員 兼務教員 学外協力研究者 専門部会		
2	2017 年度の企画事業		
	1. 研究交流会		
	(1) 第 23 回研究交流会 日本海開裂と日本列島の誕生—もう一つの物語—	橋本達也	(3)
	(2) 第 24 回研究交流会 榛名火山爆発と火砕流により埋もれた古墳時代の人馬とムラ —群馬県金井東裏・下新田遺跡の調査から—	橋本	(4)
	2. 市民講座		
	(1) 第 33 回市民講座 戦国時代の井伊谷と浜松の城—井伊直虎の時代—	橋本	(4)
	(2) 第 34 回市民講座 アジアの熱帯に見られる植物達の多様な世界	福元	(5)
	3. 公開講座		
	(1) 第 17 回自然体験ツアー 開聞岳の植物垂直分布観察会	福元	(5)
	4. 第 17 回 特別展 アジア熱帯植物の不思議世界	福元	(6)
	5. その他の活動		
	(1) 科研費成果公開研究会 「X 線 CT × 島内 139 号地下式横穴墓—X 線 CT 調査による 古墳時代甲冑の研究—」	橋本	(7)
	(2) 大島海峡、いきもの新発見 写真展	本村浩之	(8)
	(3) グッズプレゼントくじ	橋本	(8)
3	常設展示室	上村 文	(9)
	1. 入館者数 2. 利用・活用状況 3. 室内環境		
	4. 常設展示室アンケート		
	5. 常設展示室 展示品目録－ 2017 年度－ (2016 年度からの変更点)		
	6. 常設展示室の課題		
4	教育活動		
	1. 博物館実習	橋本・本村	(11)
	2. 教員免許更新講習	橋本・本村	(12)
	3. インターンシップ	各教員	(12)
5	出版・広報	橋本	(12)
6	ボランティア活動	本村	(13)
7	標本管理活動		
	1. 植物標本室	福元	(13)
	2. 魚類標本の利用状況	本村	(14)
	3. その他の標本等の管理・利用	福元・橋本	(15)
8	2017 年度 専任教員の活動業績	各教員	(16)
9	2017 年度 ポスター	各教員	(29)
10	鹿児島高等農林学校「昭和四年得業記念樹碑」 解説板データ	橋本	(31)
11	2017 年度魚類ポスター	本村	(32)
12	魚類下敷きデータ	本村	(33)

1 総合研究博物館の組織－2017年度－

館長	本村 浩之	総合研究博物館部
研究部		
資料研究系	橋本 達也 教授	考古学
	福元しげ子 助手	生物学
分析研究系	本村 浩之 教授	魚類分類学
事務補佐員	西元 暢子	
事務補佐員 (常設展示室)	上村 文	
技術補佐員	大西聡子	
研究支援者	星野三香	
事務局	研究国際部研究協力課研究支援係	

運営委員 (総合研究博物館専任教員を除く)

法文学部	木戸 秀之 教授	教育学部	瀬戸 房子 教授
理学部	鈴木 英治 教授	医学部	大重 匡 教授
歯学部	上川 善昭 教授	工学部	武井 孝行 准教授
農学部	朴 炳宰 准教授	水産学部	鈴木 廣志 教授
共同獣医学部	松元 光春 教授		
医歯学総合研究科	後藤 哲哉 教授		

兼務教員 (敬称略)

地球科学分野

- 松井 智彰：教育学部 (灰斜長石巨晶の鉱物学的研究)
北村 有迅：理学部 (四万十帯および現生付加体の形成過程とプレート境界の動的過程の地質学的研究)
中尾 茂：理学部 (始良カルデラ周辺の地殻変動に関する研究)
仲谷 英夫：理学部 (脊椎動物の進化と古生態)
ハフィーズ ウル レーマン (地質学、野外調査、地球科学、変成岩石学)

生物学分野

- 川西 基博：教育学部 (河畔域における植物群落の動態と河川攪乱との関係に関する研究)
栗和田 隆：教育学部 (動物の行動・生態の進化における進化生態学的研究)
大塚 靖：国際島嶼研 (衛生昆虫の日本および東南アジアでの種分化と病原菌との関係の解明)
山本 宗立：国際島嶼研 (アジア・オセアニアにおける唐辛子の民族植物学的研究)
相場慎一郎：理学部 (多雨林の植物多様性)
宮本 句子：理学部 (野生植物の遺伝的多様性)
上野 大輔：理学部 (海域や陸水域に生息する共生および寄生性甲殻類の分類と生態)
佐藤 正典：理学部 (環形多毛類の分類学的研究)
富山 清升：理学部 (軟体動物の生態学、生物地理学、保全生物学、系統分類学の研究、島嶼の生物相の研究)
一谷 勝之：農学部 (作物の遺伝的多様性)
鶴川 信：農学部 (マレーシアの熱帯雨林における各樹種の生育環境の解明、徳之島の天然林における各樹種の個体群動態の解明)
中西 良孝：農学部 (在来家畜および再野生化家畜の保護と活用に関する研究)
松元 光春：共同獣医学部 (現生及び遺跡出土骨に関する形態計測学的研究)

藤田 志歩：共通教育センター（野生霊長類の行動と生態、奄美群島に生息する哺乳類の分布）
鈴木 廣志：水産学部（学術標本の調査・収集・整理・分類・保存・管理に関する研究、十脚甲殻類の分類と生態・生活史に関する研究）
寺田 竜太：連合大学院 農学研究科（熱帯、亜熱帯における海藻類の種多様性と群落維持機構）
山本 智子：水産学部（干潟底生生物の群集生態学的研究）
江幡 恵吾：水産学部（漁業生産、漁具漁法）
久米 元：水産学部（魚類生態学、魚類学）
遠藤 光：水産学部（水圏植物生態学）
佐久間 美明：水産学部（環境経済学、魚類管理学、漁業経済学、教育学）

考古学・歴史学・民俗学分野

高津 孝：法文学部（薩摩塔及び南西諸島現存碇石の研究）
丹羽 謙治：法文学部（日本近代文学・薩摩藩および鹿児島県の古文書・歴史史料に関する研究）
石田 智子：法文学部（弥生時代における土器をはじめとする物質文化動態の社会変化に結びつくプロセスの研究）
兼城 糸絵：法文学部（現代中国移民母村に関する文化人類学的研究）
桑原 季雄：共通教育センター（グローバリゼーションの島嶼社会への影響および薩南諸島の観光化に関する研究）
小林 善仁：法文学部（鹿児島の地図資料に関する基礎的研究）
中路 武志：法文学部（地域映像アーカイブスの構築と活用に関する研究）
渡辺 芳郎：法文学部（薩摩焼の考古学的研究）
日隈 正守：教育学部（日本中世諸国一宮制の研究）

教育学・理学・学術情報学分野

有馬 一成：理学部（植物由来タンパク質分解酵素の構造機能相関、弾性線維エラスチンの機能解析）
平 瑞樹：農学部（農地保全と農村周辺の景観・生態系保全に関する調査・研究）
大西 佳子：医歯学総合研究科（アートサイエンス・コミュニケーション）
升屋 正人：学術情報基盤センター（情報ネットワーク・生命情報学）

学外協力研究者

石畑 清武：鹿児島大学名誉教授（熱帯園芸学、熱帯果樹に関する研究）
稲田 博：鹿児島県技術士の会（河川・砂防及び海岸工学）
上野 浩子：かごしま環境未来館（魚類寄生虫学）
浦嶋 幸世：鹿児島大学名誉教授（地殻における元素の移動と濃集、たとえば熱水の溶存物質の移動と濃集による金属鉱床の研究）
大木 公彦：鹿児島大学名誉教授（地質学、古生物学・生物学的研究）
大塚 裕之：鹿児島大学名誉教授（層序学、古脊椎動物学）
鹿野 和彦：産業技術総合研究所（地質学）
川端(北村) 訓代：鹿児島大学大学院、日本学術振興会特別研究員（地震の発生機構の解明）
木下 紀正：鹿児島大学名誉教授（環境物理学、素粒子・原子核物理学）
坂元 隼雄：(財)鹿児島県環境技術協会理事長、鹿児島大学名誉教授（地球化学、分析化学、環境化学）
櫻井 真：鹿児島純心女子短期大学教授（魚類の繁殖生態を中心とする生活史の研究）
土田 充義：鹿児島大学名誉教授・NPO 法人文化財保存工学研究室理事長（日本建築史）
塚原 潤三：鹿児島大学名誉教授（海産無脊椎動物の生殖と発生）
西中川 駿：鹿児島県考古学会会長、鹿児島大学名誉教授（動物考古学、動物解剖学）
福田 晴夫：環境省希少野生動植物種保存推進員（生物学、昆虫生態学）
藤田 晋輔：鹿児島大学名誉教授・株式会社鹿児島 TLO 取締役（木材の循環型社会・バイオマス）

等の活用による再生可能エネルギーの構築)

丸野 勝敏：(鹿児島県産植物相の調査、絶滅危惧種の調査・データ収集)

山下 智：鹿児島大学名誉教授 (魚類・両生類・ほ乳類の味覚神経情報の比較生理学)

湯川 淳一：鹿児島大学名誉教授・九州大学名誉教授 (タマバエ類の分類学的及び生態学的研究、
昆虫と寄主植物の相互関係、地球温暖化が昆虫に及ぼす影響)

山根 正氣：鹿児島大学名誉教授 (東南アジア産アリ類の分類・生物地理)

専門部会

1. プロジェクト推進部会
委員長 : 山本 智子 (水産)
松井 智彰 (教育)
専任教員: 鹿野 和彦
2. 企画交流部会
委員長 : 仲谷 英夫 (理学)
桑原 季雄 (法文)
専任教員: 福元しげ子
3. 出版広報部会
委員長 : 中西 良孝 (農学)
中尾 茂 (理学); 寺田 竜太 (連大)
専任教員: 橋本 達也

2 2017年度の企画事業

1. 研究交流会

(1) 第23回研究交流会 日本海開裂と日本列島の誕生—もう一つの物語—

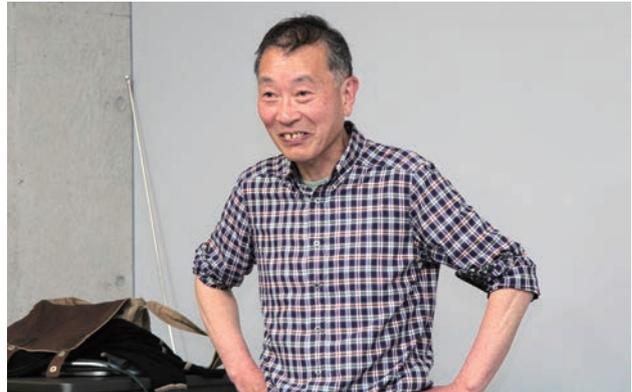
国際島嶼教育研究センターの研究会との共同開催として、2017年4月17日(月)16:30~18:00に実施した。講師の鹿野和彦氏は2017年3月末で総合研究博物館の教授を定年退職したことから、これまでの研究の経歴やその成果について、解説いただく場とした。

鹿児島大学の5年間の在職およびそれ以前の産業技術総合研究所在職時に日本海域、とくに秋田県周辺や島根県でのフィールド調査から積み上げてきた地質調査に基づく日本列島の形成過程の研究成果について説明がなされた。

当日は、平日にもかかわらず27名の参加者があり、とくに地質学関係者と活発な議論が行われた。



第23回 研究交流会



鹿野 和彦 氏

(2) 第24回研究交流会 榛名火山爆発と火砕流により埋もれた古墳時代の人馬とムラ一群
馬県金井東裏・下新田遺跡の調査から—

2017年6月24日(土)14:30～16:00、郡元キャンパス共通教育311号室にて、講師に杉山秀宏氏((公財)群馬県埋蔵文化財事業団)を招いて実施した。

群馬県渋川市金井東裏遺跡、金井下新田遺跡では、5世紀末～6世紀前葉にかけての榛名山火山活動に伴う噴出物で遺跡が埋没したことによって、古墳時代の社会を復原する上で画期的な発見が相次いでいる現在、考古学でもっとも注目されている遺跡と言って過言ではない。そのもっとも象徴的なものは、甲を着たまま火砕流に埋まった男性の発見であるが、それ以外にも、住居跡や古墳、祭祀場などの調査で大きな成果が得られている。

この遺跡群での最新の調査成果について、調査を担当してきた杉山秀宏氏に解説いただいた。当日は56名の参加があった。考古学・歴史学関係だけではなく、火山に関する地学関係者なども参加し、質疑応答も活発に行われた。



第24回 研究交流会



杉山 秀宏 氏

2. 市民講座

(1) 第33回市民講座 戦国時代の井伊谷と浜松の城—井伊直虎の時代—

2017年7月22日(土)14:30～16:00、郡元キャンパス共通教育311号室にて、講師に鈴木一有氏(浜松市文化財課)を招いて実施した。

2017年は、NHK大河ドラマで井伊直虎が取り上げられており、その関心も高いと考えられたこと、また浜松市ではこれまで中世山城や浜松城など、堅実な調査研究が積み重ねられており、単にブームに乗るのではなく、文化財を活かした魅力づくりを積極的に進めていることにも注目できる。こ



鈴木 一有 氏



第33回 市民講座

れらを踏まえて、井伊直虎をキーワードとしつつも文化財の保護とまちの魅力づくりについて講演いただいた。

当日は学内外から 38 名の参加があった。

(2) 第 34 回市民講座 アジアの熱帯に見られる植物達の多様な世界

2017 年 10 月 21 日（土）13:00～15:00 に、鹿児島大学理学部 1 号館 101 号室において、講師の鹿児島大学理学部の鈴木英治 教授に、世界でも最も多様性が高い地域の一つであるアジアの熱帯林に見られる植物について、薩南諸島の亜熱帯林と比較しながら、その多様な植物たちの魅力を紹介していただいた。参加者は 20 名で、講座終了後には第 17 回特別展「アジア熱帯植物の不思議世界」展示会場の鹿児島大学郡元キャンパス中央図書館のギャラリーアトリウムに移動し、本講座の講師による展示の解説が行われ、参加者の質問にも応じていただいた。

3. 公開講座

(1) 第 17 回自然体験ツアー 開聞岳の植物垂直分布観察会

標高 928m の開聞岳、そこには約 5,000 年前にできた新火山の植物の侵入史と、標高に対応した垂直分布をみることができる。2017 年 4 月 29 日（土）に参加者（23 名）は開聞岳の登山口から山頂に至るまでを、案内役の鈴木英治氏（鹿児島大学理学部教授）と丸野勝敏氏（総合研究博物館学外協力研究者）の解説を受けながら、標高差 800m にどのような植物が分布しているかを観察した。当日は 9:00 に山麓に集合し、16:00 には下山して解散した。

参加者から、次回以降の他の山での開催を希望する声が多く寄せられた。



第 17 回 研究交流会



鈴木 英治 氏 (中央)



丸野 勝敏 氏 (右)

4. 第17回特別展 アジア熱帯植物の不思議世界

2017年10月2日（月）～10月29日（日）まで鹿児島大学郡元キャンパス中央図書館のギャラリーアトリウムで開催した。鹿児島大学理学部鈴木英治教授が長年調査研究を続けられてきたインドネシアを中心とした東南アジアの熱帯植物についての展示である。

アジア熱帯林で見られる多種多様な植物について、鹿児島の亜熱帯植物とも比較しながら、標本や写真で紹介した。会期中、鈴木氏による展示解説を2回（10/2, 10/21）行った。

会期中、展示時間は10:00～17:00までである。会場係を常時は配置しなかったため、見学者数はカウントしていない。



特別展 アジア熱帯植物の不思議世界



特別展 ギャラリートーク

5. その他の活動

(1) 科研費成果公開研究会 X線CT ×島内139号地下式横穴墓－X線CT調査による古墳時代甲冑の研究－

橋本達也を研究代表者とする科研費研究、基盤研究B「X線CT調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究」が最終年度となったため、2017年9月9日（土）13:00～16:30、福岡大学中央図書館1F多目的ホールを会場として、その成果公開研究会を行った。

研究発表の内容は下記のとおりである。九州各県、中国地方・関西・関東・韓国から約40名の参加があった。なお、研究会の実施に当たっては福岡大学人文学部考古学研究室の全面的な協力を得た。

橋本 達也（鹿児島大学総合研究博物館）「X線CT調査による古墳時代甲冑の研究と島内139号地下式横穴墓の調査」

河野 一隆（九州国立博物館）「X線CTの活用と次世代の博物館」

阪口 英毅（京都大学大学院文学研究科）「X線CT調査による短甲の研究」

鈴木 一有（浜松市文化財課）「X線CT調査による衝角付冑の研究」

塚本 敏夫（（公財）元興寺文化財研究所）「古墳時代甲冑の科学分析におけるX線CTの位置と展望」

古谷 毅（京都国立博物館）「三次元計測・X線CT調査と古墳時代甲冑研究の課題」



科研費成果公開研究会

(2) 大島海峡、いきもの新発見 写真展

2017年8月6日(日)から9月10日(日)にかけて、奄美大島の瀬戸内町立図書館・郷土館で開催された(9:00～18:00、月曜休館)。本写真展は鹿児島大学「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」プロジェクトと瀬戸内町立図書館・郷土館の共催で、鹿児島大学総合研究博物館と鹿児島大学国際島嶼教育研究センターが後援した。大島海峡の海洋生物の写真、52点が解説付きで展示され、そのうち、総合研究博物館からは珍しい魚の写真20点が出展された。約100名が来場し、好評であった。

(3) グッズプレゼントくじ

2017年11月11日(土)～12日(日)、鹿大祭にあわせて、常設展示室にて開催した。プレゼントのグッズは以前標本受け入れに伴って収集していた未使用のガラス製実験道具や竿天秤の分銅などで、1970年代頃のものと考えられる。博物館ですべてを保存する必要はないことから、入館者プレゼントに利用した。

鹿大祭の際が、常設展示室にとって一年でもっとも多くの人々が訪れる。この機会に、楽しみ企画として行った。グッズの在庫は限られているので恒常的に続けることはできないが、事前にTwitterでも情報を流していたこともあって、くじ目当てでの来館者があるほどで、大人にも子どもにも反応は良好であった。約4割程度を当たりくじとした。



常設展示室 グッズプレゼントくじ

3 常設展示室

1. 入館者数

常設展示室 月別入館者数 2017年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総入館者数	129	191	108	117	109	256	113	464	55	62	72	114	1790
団体	55	118	10	0	19	95	30	0	20	17	0	0	364
一般	74	73	98	117	90	161	83	464	35	45	72	114	1426
開館日数	19	18	22	19	20	18	22	20	16	19	19	22	234

常設展示室 曜日別入館者数 2017年度

	火		水		木		金		土		日		月		合計		
	団体	一般	団体	一般	団体	一般											
4月	0	17	0	9	0	24	0	11	0	13	0	0	55	0	55	74	129
5月	107	17	0	7	0	8	0	16	11	16	0	0	0	9	118	73	191
6月	0	12	0	13	10	22	0	30	0	21	0	0	0	0	10	98	108
7月	0	32	0	19	0	19	0	26	0	21	0	0	0	0	0	117	117
8月	0	13	0	12	0	19	19	9	0	22	0	0	0	15	19	90	109
9月	0	14	0	68	0	52	95	21	0	6	0	0	0	0	95	161	256
10月	0	12	0	18	4	10	26	11	0	15	0	0	0	17	30	83	113
11月	0	11	0	15	0	12	0	37	0	177	0	212	0	0	0	464	464
12月	0	8	0	7	0	6	0	10	20	4	0	0	0	0	20	35	55
1月	0	11	0	8	17	5	0	15	0	0	0	0	0	6	17	45	62
2月	0	10	0	11	0	13	0	17	0	13	0	0	0	8	0	72	72
3月	0	37	0	19	0	20	0	17	0	21	0	0	0	0	0	114	114
合計	107	194	0	206	31	210	140	220	31	329	0	212	55	55	364	1426	1790
	301		206		241		360		360		212		110		1790		

今年度の総入館者数は1790名で、昨年度に比べ620名減少している。一般585名、団体35名の減少で、減少の大きな要因は共通教育「博物館へのいざない」が開講されなかったことによるものだが、大学祭期間中は企画イベントを開催し、前年を100名以上、上回る入館者があった。

2. 利用・活用状況

大学関係では、4月の新入生オリエンテーション（理学部・工学部）をはじめ、教育学部・法文学部・農学部および共通教育の授業のほか、教員免許状更新講習、博物館実習などの利用があった。学外からは、学術交流協定校の海外の大学をはじめ、県内外から見学・研修目的での利用があった。

・大学関係

- ・理学部地球環境科学科 新入生オリエンテーション
- ・工学部機械工学科（1年）フレッシュマンセミナー
- ・教育学部 博物館学事前実習
- ・法文学部 博物館実習（見学）
- ・農学部「地学概論」
- ・共通教育科目「鹿児島探訪」
- ・教育学部講義（アクティブラーニング）
- ・教員免許状更新講習
- ・博物館実習

・学外

- ・職業訓練校（観光ビジネス科）カリキュラム
- ・国立大学理学療法士・作業療法士教育施設協議会研修
- ・大崎町教育委員会社会教育委員研修
- ・海外学術交流協定校 雲南農業大学（中国）

3. 室内環境

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1階ケース 温度(°C)	17	22.1	24.4	27.3	26.3	25.6	24.4	18	15.5	12.7	15.1	16.2	20.4
1階ケース 湿度(%)	66.6	63.8	59.8	53.8	55.3	59.3	65.3	64.2	59.4	60	55.1	62.1	60.4
2階ケース 温度(°C)	18.8	21.5	23.1	25.3	26.1	25.3	22.8	17.6	14.5	13.5	13.3	17	19.9
2階ケース 湿度(%)	67	58.8	59.4	56.3	53.9	60.5	65.9	71.8	62.3	59.1	59.4	67.6	61.8

4. 常設展示室アンケート

アンケート集計結果

1) 性別

男 66名 女 60名 合計 126名

2) 年齢

小学生以下 6名 中学生 6名 高校生 3名 大学生 28名
 上記以外の10代 2名 20歳代 13名 30歳代 11名 40歳代 17名
 50歳代 31名 60歳代 6名 70歳以上 1名 無回答 2名

3) 居住地

鹿児島市内 34名 鹿児島県内 11名 鹿児島県外 63名
 大学関係者(学生・教職員) 17名 無回答 1名

4) 常設展示室を知った理由

立て看板 54名 ホームページ 17名 授業・講座等 1名
 ポスター 12名 人にすすめられて 20名 その他 21名 無回答 1名

5) 感想

大変よい 78名 よい 47名 どちらともいえない 0名
 つまらない 0名 大変つまらない 0名 無回答 1名

6) 感想・意見・要望等

アンケート126件中121件に自由記述欄の記入があった。

内容を見てみると、全般的な感想としては「古い建物や資料をうまく活用している」「鹿児島ならではの展示がよい」「授業で取り扱った内容が展示されていてよかった」「車いすでも移動に支障なくゆっくり見学できた。展示だけでなく研究成果(図鑑・目録)にもとても興味をひかれた。将来鹿大で学んでみたいと思った」。

展示内容については「縄文・弥生・古墳時代の石器や土器を見たり触れたり、鹿大の前身の旧制学校時代の展示を見て、毎日通っているこの大学には数々の歴史が存在していることに気づくことができた」「仕事で測量機を取り扱っているので昔のトランジットの展示が見られて感動した。一度では見きれなかったのでまた来たい」。

その他に「大学祭で存在を知り再度見学に来た。郡元に遺跡があるとは知らず驚いた。もっとPRすればいいのと思う」「ホームページを見て、鹿児島大学の博物館では魚類標本作製に注力していると知り来館した。魚類標本もぜひ見てみたかった」、「場所がわかりづらかった。土曜日で人に尋ねることもできず、困った」といった声が寄せられた。

意見・要望としては、「専門家の解説が時々あるといいのと思った」「もっとたくさんの標本があると思うが、貴重な資料の数々、デジタル化を進めて公開してほしい」などがあつた。

5. 常設展示室 展示品目録－2017年度－（2016年度からの変更点）

展示追加

・桜ヶ丘キャンパス出土資料〔MRI増築〕前平式土器1・細石刃5・石鎌1 鹿大埋蔵文化財調査センター報告書作成のため撤去していたもの。再展示

展示終了

・扁平両刃石斧 鹿大埋蔵文化財調査センター報告書作成のため

6. 常設展示室の課題

今年度は、昨年度までに比べると前期は学生を中心に一般の見学利用が大幅に減少したが、大学祭の企画イベントには例年を大きく上回る利用があった。また、アンケートの回答を見ると、県外からの見学者が例年よりも多く、当館ホームページ（ブログ・グーグルマップ）などインターネットの情報をきっかけに来館した、という見学者も増えてきている。一方、施設の存在があまり知られていないようなのでもっと積極的にPRしたほうがいいとの声も多く聞かれ、情報発信を含め来館者増につながるような取り組みが今後必要である。

4 教育活動

1. 博物館実習

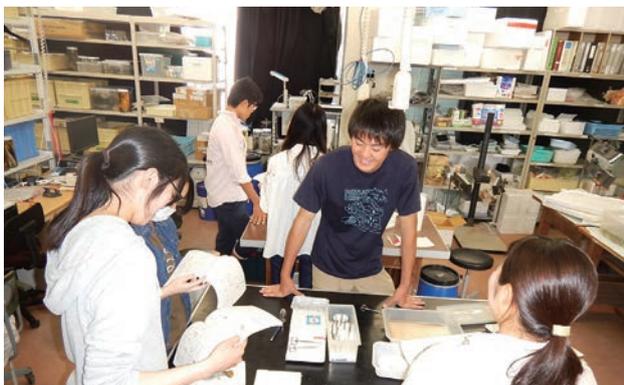
総合研究博物館では、博物館実習の学内実習を分担で担当している。実習受講生は法文学部5名、教育学部12名、理学部5名、水産学部4名・農学部1名であった。

4月22日は理学部・水産学部・農学部、5月6日は法文学部・水産学部の一部、5月13日は教育学部の学生に対して、橋本が担当し、博物館に関わる全分野において基本技術である写真に関する実習を行った。

まずは、カメラ・写真に関する基礎知識について説明を行い、理解を深めた後に撮影台の設営から、博物館資料の撮影まで行った。今回は、被写体を土器、顕微鏡、シカの頭蓋骨とし、実際に全員が一眼レフカメラで撮影するまでを行った。また撮影した画像をフォトタッチソフトを使って加工するところま



博物館実習作品画像（橋本）



博物館実習（本村）

で説明した（橋本）。

5月20日、27日は本村が担当し、博物館標本作成室で魚類の液浸標本の作製・整理作業を行った。法文学部6名、教育学部1名、農学部1名、理学部4名、および水産学部4名の学生がおおよそ100点の標本を登録した。

7月22日（金）は本村が担当し、補講として、水産学部2名が作業を行った。

2. 教員免許更新講習

2009年4月1日から教員免許更新制が導入され、鹿児島大学でも免許状更新講習が開設された。免許状更新講習とは、教員免許状をもつ人に対して、文部科学大臣の認定を受けて大学などが開設する最新の知識技能の修得を目的とする講習である。

8月4日（金）には橋本が、「郷土の歴史の学び方～考古学と博物館～」を開講した。参加者は18名、小学校・中学校（社会）・高等学校（地歴）を主な対象者として実施した。実講義は考古学という学問の概要から、遺跡の調べ方、考古資料の見方について説明し、また博物館の役割とその活用方法の解説をとおして、各地域の郷土の歴史を学ぶ方法を考えるものである。講義と実習は8:50から16:30まで行われ、プログラムには拓本実習を含んでいる。（橋本）

総合研究博物館では同講習の選択科目の開設を行い、2017年度は9月9日（土）に本村を講師として「自然を記録する方法～魚類の博物学と標本の作製法～」が開講された。対象は小学校教諭と中学校・高等学校の理科教諭の合わせて10名。大航海時代から現代までの魚類コレクション構築の歴史を世界の博物館紹介を通して振り返るとともに、生物多様性を理解するための博物館コレクションの役割を解説した。また、標本の重要性を踏まえたうえで、魚類標本の最新の作製・保存方法を紹介し、実際に液浸標本を作製した。講義と実習は8:50から16:30まで行われ、後日、受講者10名全員が履修認定された（本村）。

3. インターンシップ

鹿児島玉龍中学校1年生2名を受け入れた。1日6時間、3日間で博物館ので作業を体験した。

8月7日は橋本が担当し、考古資料の整理を行った。

8月8日は福元が担当し、アリの標本作製作業を行った。

8月9日は本村が担当し、博物館標本作成室で魚類の液浸標本の作製・整理作業を行った。

5 出版・広報

2017度の出版物は下記のとおりである。

ニューズレター 例年ニューズレターは1冊を特別展関連資料としている。さらに総合研究博物館にかかわる情報を掲載した号を1冊刊行している。

ニューズレター No.41 は、特別展にかかわる解説で全22p。

鈴木英治「アジア熱帯植物の多様性」

相場慎一郎「熱帯山地林：熱帯低地林・温帯林との比較」

相場慎一郎・川西基博「鹿児島でがんばる熱帯植物」

ニューズレター No.42 は、総合研究博物館スタッフおよび関連分野教員の研究紹介からなる5件の記事を掲載した。著者とタイトルは下記のとおりである。全14ページ。

福元しげ子「ANeT - アジアのアリ研究者ネットワークのセミナーに参加して」

上村 文「鹿児島高等農林学校の得業記念植樹」

本村浩之「総合研究博物館における魚類学にかかわる2017年度の研究活動」

橋本達也「諏訪考古資料コレクション3 -松木蘭式土器-

橋本達也「大正時代の顕微鏡—七高と高等農林—」

その他出版物 総合研究博物館関連出版物として下記の2冊を刊行している。

岩坪洸樹・本村浩之（編）2017『火山を望む甕海 鹿兒島湾の魚類』鹿兒島水圏生物博物館・鹿兒島大学総合研究博物館 302 pp.

木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太（編）2017『緑の火山島 口永良部島の魚類』鹿兒島大学総合研究博物館 200 pp.

小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之（編）2018『黒潮あたる鹿兒島の海 内之浦漁港に水揚げされた魚たち』鹿兒島大学総合研究博物館 519 pp.

本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典（編）2018『奄美群島の魚類』鹿兒島大学総合研究博物館・国立科学博物館 400 pp.

年報 毎年1冊、前年度分の年報を刊行している。本年は、年報 No.16、2016年度分を刊行した。

ポスター・チラシ 第17回特別展にあわせて、展示案内用のB2版ポスター・A4版チラシを作成し、学内各所および他の博物館、教育委員会などに送付し、掲示・配布を依頼した。

魚類ポスターを作成し、各所に配布した。ポスターは以下のとおりである。「奄美大島の魚」2枚セット、「種子島の魚」、「鹿兒島県枕崎市 市場の魚」、「フィリピン・パナイ島の市場の魚」。

魚類下敷き「鹿兒島のサメとエイ」を作成し、配布した

その他広報 2017年7月より広報のためのTwitterを開始した。

総合研究博物館に移管された鹿兒島高等農林学校「昭和四年得業記念樹碑」の解説板を設置した。

6 ボランティア活動

魚類標本の作製・登録・データベース化 総合研究博物館では2006年度から魚類標本の受け入れおよび標本の作製を積極的に行っている。ボランティアは本学学生、一般市民、漁業従事者、水族館職員など多彩な構成である。ボランティアの活動は、大きく分けると魚類の採集、学習会、標本の作製と保存、および教育普及活動の4つの要素から成る（詳しくは「総合研究博物館ニュースレター No. 16」と総合研究博物館出版「魚類標本の作製と管理マニュアル」を参照）。本年度は本学水産学部から移管された標本と鹿兒島県産の標本を中心に約10000標本の登録を行い、標本データのデータベースと、約50000件の画像データベースを作成した。

また、2017年7月10日にボランティア学習会を開催し、北海道大学名誉教授の仲谷一宏氏にサメについて講演をして頂いた。20名の学生やボランティアが聴講した。

7 標本管理活動

1. 植物標本室

2017年度も総合研究博物館専任の植物標本管理担当者が補充されていないので、兼務教員で理学部の鈴木英治教授にサポートをしていただいた。主に標本のデータベース化の作業を担当願ひ、大西聡子がスキャナーによる植物標本の映像化、標本ラベルの情報を読み取ってコンピューターに入力する作業を継続して行った。

下記、研究者による標本閲覧・研究利用があった。

琉球大学（Eupatorium、沖縄県久米島産植物標本 約100点）、神戸大学（Goodyera, Gastrodia, Lecanorchis, Sciaphila、約50点）、一般財団法人 沖縄美ら島財団（カヤツリグサ科、サルトリイバラ科、計104点）、大阪市立自然史博物館（ママコナ属、ミヤマナミキ、ヒメハマナデシコ、ハマナデシコ）

神戸大学理学部、琉球大学理学部から論文別刷の寄贈があった。

2. 魚類標本の利用状況

2016年度の総合研究博物館所蔵魚類標本・資料の利用状況を報告する（学内での利用数は膨大であるため除く）。

脊索動物標本の利用状況

2017年度の総合研究博物館所蔵脊椎動物標本・資料の利用状況を報告する（学内での利用数は膨大であるため除く）。

貸出・利用年月	分類	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2017年4月	魚類	液浸標本	2	ふじのくに地球環境史ミュージアム	研究
2017年4月	魚類	標本画像	8	ふじのくに地球環境史ミュージアム	研究
2017年4月	魚類	液浸標本	1	宮崎大学	研究
2017年4月	魚類	標本画像	3	宮崎大学	研究
2017年4月	魚類	液浸標本	7	国際水産資源研究所	研究
2017年4月	魚類	標本画像	16	国際水産資源研究所	研究
2017年4月	魚類	液浸標本	5	National Museum of Marine Biology & Aquarium, Taiwan	研究
2017年4月	魚類	液浸標本	4	宮崎大学	研究
2017年4月	魚類	液浸標本	36	高知大学	研究
2017年5月	魚類	液浸標本	7	National Museum of Marine Biology & Aquarium, Taiwan	研究
2017年5月	魚類	筋肉組織	50	東京農業大学	研究
2017年5月	魚類	標本画像	50	東京農業大学	研究
2017年5月	魚類	標本画像	1	学研プラス	図鑑
2017年5月	魚類	標本画像	222	美術出版社	ガイドブック
2017年6月	魚類	液浸標本	8	三重大学	研究
2017年6月	魚類	筋肉組織	5	三重大学	研究
2017年6月	魚類	筋肉組織	7	Museum & Art Gallery of the Northern Territory, Australia	研究
2017年6月	魚類	標本画像	2	MBC	テレビ
2017年6月	魚類	標本画像	1	読売新聞	新聞
2017年6月	魚類	標本画像	30	学研プラス	図鑑
2017年6月	魚類	標本画像	1	朝日新聞	新聞
2017年6月	魚類	標本画像	1	南日本新聞	新聞
2017年6月	魚類	標本画像	7	CSIRO Marine and Atmospheric Research, Australia	研究
2017年7月	魚類	標本画像	8	National Museum of Marine Biology & Aquarium, Taiwan	研究
2017年7月	魚類	液浸標本	1	宮崎大学	研究
2017年8月	魚類	液浸標本	3	ふじのくに地球環境史ミュージアム	研究
2017年8月	魚類	液浸標本	8	高知大学	研究
2017年8月	魚類	標本画像	11	宮崎大学	研究
2017年8月	魚類	標本画像	1	南日本新聞	新聞
2017年10月	魚類	液浸標本	2	University of Washington, USA	研究
2017年10月	魚類	液浸標本	12	Florida Museum of Natural History, USA	研究
2017年10月	魚類	標本画像	6	University of Washington, USA	研究
2017年10月	魚類	標本画像	10	Florida Museum of Natural History, USA	研究
2017年10月	魚類	液浸標本	1	京都大学	研究
2017年10月	魚類	標本画像	202	京都大学	研究
2017年10月	魚類	標本画像	13	山形大学	研究
2017年10月	魚類	液浸標本	11	山形大学	研究
2017年10月	魚類	標本画像	3	大阪大学	研究
2017年10月	魚類	筋肉組織	3	大阪大学	研究
2017年10月	魚類	標本画像	1	Queensland Museum, Australia	研究
2017年10月	魚類	筋肉組織	1	Queensland Museum, Australia	研究
2017年10月	魚類	標本画像	6	兵庫県立川西緑台高校	研究
2017年10月	魚類	液浸標本	3	兵庫県立川西緑台高校	研究
2017年11月	魚類	液浸標本	4	宮崎大学	研究
2017年11月	魚類	標本画像	8	宮崎大学	研究
2017年12月	魚類	液浸標本	1	国立科学博物館	研究
2017年12月	魚類	標本画像	2	高知大学	研究
2017年12月	魚類	液浸標本	1	高知大学	研究
2017年12月	魚類	標本画像	2	Pukyong National University, Korea	研究
2017年12月	魚類	液浸標本	8	水産研究・教育機構 開発調査センター	研究

2017年12月	魚類	液浸標本	6	Jeollabuk-do Fisheries Research Institute, Korea	研究
2017年12月	魚類	液浸標本	19	National Museum of Marine Biology & Aquarium, Taiwan	研究
2017年12月	魚類	液浸標本	1	高知大学	研究
2017年12月	魚類	標本画像	2	高知大学	研究
2018年1月	魚類	液浸標本	6	Queensland Museum, Australia	研究
2018年1月	魚類	標本画像	3	Australian Museum, Australia	研究
2018年1月	魚類	液浸標本	2	Australian Museum, Australia	研究
2018年1月	魚類	標本画像	12	Queensland Museum, Australia	研究
2018年1月	魚類	標本画像	3	University of Minnesota, USA	研究
2018年1月	魚類	標本画像	53	京都大学	研究
2018年1月	魚類	液浸標本	2	京都大学	研究
2018年1月	魚類	液浸標本	9	高知大学	研究
2018年1月	魚類	液浸標本	8	大分マリーナバレス水族館	展示
2018年2月	魚類	液浸標本	35	Australian Museum, Australia	研究
2018年2月	魚類	筋肉組織	27	Australian Museum, Australia	研究
2018年2月	魚類	筋肉組織	3	Texas A & M University, USA	研究
2018年3月	魚類	液浸標本	48	National Museum of Marine Biology & Aquarium, Taiwan	研究
2018年3月	魚類	筋肉組織	77	National Taiwan University, Taiwan	研究
2018年3月	魚類	液浸標本	1	京都大学	研究
2018年3月	魚類	筋肉組織	1	京都大学	研究
2018年3月	魚類	液浸標本	13	鹿児島県立博物館	企画展
2018年3月	魚類	液浸標本	15	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2018年3月	魚類	液浸標本	38	西海区水産研究所	研究

合計 73 件 1190 点

3. その他の標本等の管理・利用

水産学部鈴木廣志教授より 種子島産ヌマエビ科 4 種 70 個体、テナガエビ科 2 種 74 個体を受入れた。標本に対して博物館登録番号を付し、登録、保管することとなった。

地学標本の活用状況

利用年月	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2017年4月	浦嶋コレクション / 菱刈鉦山鉦石	100	三井申木野鉦山(株)	研究利用
2017年4月	浦嶋コレクション / 菱刈鉦山鉦石	3	志賀美英 / 鹿大名誉教授	研究利用
2017年5月	谷山ボーリングコア	13	株式会社 古澤地質	研究利用
2017年7月	錫山鉦山産錫鉦石	1	志賀美英 / 鹿大名誉教授	展示「鉦物資源の展示 特集：薩摩藩宮錫山鉦山」
2017年9月	種子島地質図	1	鹿児島県立博物館	展示「博物館がやってきた」in 種子島
2017年12月	錫山鉦山産錫鉦石	1	志賀美英 / 鹿大名誉教授	展示「鉦物資源の展示 特集：錫山鉦山遺構」
2018年2月	オーストラリアコア試料	1	東北大学大学院	研究利用

考古資料の活用状況

利用年月	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2017年12月	神領10号墳出土盾持人埴輪	1	大手前大学大学院	研究利用
2017年12月	神領10号墳クビレ部土器群画像	1	株式会社 雄山閣	掲載『季刊考古学』142号
2018年3月	岡崎18号墳出土物画像	3	鹿屋市文化財センター	掲載『大隅申良 岡崎古墳群の研究』

その他標本・資料の活用状況

利用年月	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2017年12月	桜島薩摩テラフ剥ぎ取り資料画像	1	MBC 南日本放送	取材
2018年2月	教育史資料画像	10	鳥津製作所総合記念資料館	調査

放送大学鹿児島学習センターの実施事業「マチュピチュに魅せられた日本人と古代アンデス文明展」(かごしま県民交流センター西棟4階、2017年9月9日(土)～10月1日(日))に、総合研究博物館の特別展で主に使用する稼働式の展示ケースの貸し出しを行った。



放送大学「マチュピチュに魅せられた日本人と古代アンデス文明展」

共同獣医学部附属動物病院前に立っていた鹿児島高等農林学校「昭和四年得業記念樹碑」が動物病院の改修・周辺環境整備に伴って移動することとなったため、総合研究博物館で引き取った上で、常設展示室横の植え込みの間に移動し、解説板の設置を行った。



鹿児島高等農林学校「昭和四年得業記念樹碑」

8 2017年度専任教員の活動業績

橋本達也 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「古代東アジアの王陵」担当

共通教育科目「博物館展示論」担当

共通教育科目「博物館教育論」担当

2) その他

「博物館実習」担当

教員免許状更新講習

(2) 研究活動

1) その他論文等 (査読無)

- 橋本達也 2018.3 「諏訪考古資料コレクション3—松木蘭式土器—」『鹿児島大学総合研究博物館 News Letter』 No.42 鹿児島大学総合研究博物館
- 橋本達也 2018.3 「大正時代の顕微鏡—七高と高農資料—」『鹿児島大学総合研究博物館 News Letter』 No.42 鹿児島大学総合研究博物館
- 橋本達也 2018.3 「奄美地域における遺跡発掘調査情報の共有化2—『全国遺跡報告総覧』の活用—」『南太平洋海域調査研究報告』 No.59 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
- 橋本達也 2017.11 「唐仁大塚古墳・唐仁古墳群と鹿児島の古墳研究」『唐仁古墳群シンポジウム～いにしえより未来の君へつなぐメッセージ～』 東串良町・東串良町教育委員会
- 橋本達也 2017.9 「X線CT調査による古墳時代甲冑の研究と島内139号地下式横穴墓の調査」『科研費成果公開研究会 X線CT×島内139号地下式横穴墓—X線CT調査による古墳時代甲冑の研究—』 鹿児島大学総合研究博物館
- 橋本達也・中野和浩・塚本敏夫・初村武寛 2017.5 「銀装円頭大刀と東アジアの鮫皮柄巻—宮崎県えびの市島内139号地下式横穴墓出土例を中心に—」『日本考古学協会第83回総会 発表要旨』 日本考古学協会 pp.46-47

2) 学会発表

- 橋本達也 2017.09.09 「X線CT調査による古墳時代甲冑の研究と島内139号地下式横穴墓の調査」『科研費成果公開研究会 X線CT×島内139号地下式横穴墓—X線CT調査による古墳時代甲冑の研究—』(福岡大学・福岡市)
- 橋本達也・中野和浩・塚本敏夫・初村武寛 2017.5.28 「銀装円頭大刀と東アジアの鮫皮柄巻—宮崎県えびの市島内139号地下式横穴墓出土例を中心に—」『日本考古学協会第83回総会』 日本考古学協会 (大正大学・東京)

3) その他

- 橋本達也 2018.2 「おじょか古墳の副葬品と被葬者像」『おじょか古墳発掘50周年記念シンポジウム おじょか古墳と5世紀の倭 記録集』 志摩市教育委員会
- 橋本達也 2017.11 『えびの市島内139号地下式横穴墓 平胡録』 えびの市教育委員会

(3) 外部資金

競争的外部資金 研究代表者

科研費 基盤研究B (一般) 2014年度～2017年度予定. 「X線CT調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究」. 研究代表者.

研究分担者

基盤研究C. 2017～2019年度. 「古墳時代鉄鍔の変化と地域性に関する数理的解析」(研究代表者・松木武彦・国立歴史民俗博物館教授ほか2名との共同研究)

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等

文化財保存全国協議会全国委員
鹿児島県考古学会幹事
九州前方後円墳研究会幹事
日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員 (審査委員)
東串良町唐仁古墳群保存活用検討委員会 委員 (鹿児島県肝属郡東串良町)
肝付町塚崎古墳群保存活用策定委員会 委員 (鹿児島県肝属郡肝付町)
下北方地下式横穴第5号出土遺物再整理専門委員会委員

2) 公開講座等講師

2017年7月01日 考古学講座「鉄から読み解く鹿児島の古墳時代」(公財)上野原縄文の森
2017年10月15日 えびの市歴史民俗資料館 企画展講演会 「島内139号墓の調査とその後の新発見—平胡録・馬具・小刀群を中心に—」えびの市文化センターホール
2017年11月4日 志摩市教育委員会 おじょか古墳発掘50周年記念シンポジウム おじょか古墳と五世紀の倭「おじょか古墳の副葬品と被葬者像」志摩市立図書館2Fアートホール
2017年11月18日 東串良町・東串良町教育委員会 唐仁古墳群シンポジウム～いにしえより未来の君へつなぐメッセージ～「唐仁大塚古墳・唐仁古墳群と鹿児島の古墳研究」 東串良町総合センター

3) 調査指導・協力

2017年4月17日 都城市菓子野2017-1号地下式横穴墓調査協力
2017年5月30日 都城市築池2017-1号地下式横穴墓調査協力

2017年7月27～28日 佐世保市教育委員会：鬼塚古墳出土品調査指導
2017年9月8日～9月16日 えびの市島内171号地下式横穴墓調査協力
2017年9月16日～10月7日 えびの市島内172号地下式横穴墓調査協力
2017年12月20日～2018年2月7日 志布志市原田3号地下式横穴墓調査協力
2018年2月23日 えびの市小木原地下式横穴墓群調査協力

(5) 学内委員

放射線安全管理委員会委員
学芸員資格科目委員会委員
七十年史編集委員会委員
七十年史編集専門部会委員

(6) 調査研究

島内139号地下式横穴墓出土資料調査（えびの市教育委員会）
東京国立博物館円照寺墓山1号墳出土資料調査

(7) 報道関係

研究内容記事

2016年7月25日「鍛冶具に高度な細工 島内139号地下式横穴墓 上」宮崎日日新聞
2016年7月28日「金属器の権益掌握か 島内139号地下式横穴墓 下」宮崎日日新聞
2016年11月15日「豪華な副葬品、人物像は 宮崎えびの地下式横穴墓の分析進む」朝日新聞
調査成果記事

2017年9月29日「えびの市島内139号地下式横穴墓で、矢入れ具「平胡籙」を確認」

朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・宮崎日日新聞・共同通信全国地方紙、9月30日西日本新聞、10月11日南日本新聞に報道記事掲載

コメント

2017年5月1日「よろい片、最北の出土 新潟の古墳、大和政権との関係示す」共同通信配信

本村浩之 [教授]

(1) 教育活動

1) 専門教育

水産学部学芸員取得課程「博物館実習事前事後指導」（前期）
水産学研究科専門科目「修士研究ゼミ I」（前期）
水産学研究科専門科目「リーディングコース I」（前期）
水産学研究科専門指導科目「総合型指導 AII」（前期）
水産学研究科専門科目「修士論文研究」（前期・後期）
水産学研究科専門科目「修士研究ゼミ II」（後期）
水産学研究科専門科目「リーディングコース II」（後期）
水産学研究科専門指導科目「総合型指導 AI」（後期）
大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別演習」（前期・後期）
大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別研究」（前期・後期）

2) その他

博物館資料論（前期）
教員免許状更新講習（前期）
博物館実習（前期）
博物館実習事前事後指導（前期）

3) 研究教育

博士課程6人，修士課程6人，学部4人

(2) 研究活動

1) 研究論文（査読付）

Matsunuma, M., H. Motomura and S. V. Bogorodsky. 2017 (Apr.). Review of Indo-Pacific dwarf lionfishes (Scorpaenidae: Pteroinae) in the *Dendrochirus brachypterus* complex, with description of a new

- species from the western Indian Ocean. *Ichthyological Research*, doi 10.1007/s10228-017-0583-6 (20 Apr. 2017)
- Hata, H., H. Iwatsubo and H. Motomura. 2017 (Apr.). First specimen-based records of *Pristipomoides auricilla* (Perciformes: Lutjanidae) from the Satsunan Islands, Japan. *Biological Magazine Okinawa*, 55: 19–26.
- Lavoué, S., J. Bertrand, W.-J. Chen, H.-C. Ho, H. Motomura, T. Sado and M. Miya. 2017 (Apr.). Phylogenetic position of the rainbow sardine *Dussumieria* (Dussumieriidae) and its bearing on the early evolution of the Clupeoidei. *Gene*, 623: 41–47. Doi 10.1016/j.gene.2017.04.032
- Matsunuma, M., S. V. Bogorodsky, A. O. Mal, Y. Ando and H. Motomura. 2017 (May). Reinstatement of *Minous inermis* and *M. trachycephalus* (Synanceiidae) to the checklist of Red Sea fishes, with comments on *M. monodactylus*. *Marine Biodiversity*, doi 10.1007/s12526-017-0716-1 (9 May 2017)
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017 (May). 高知県から得られたニシン科魚類カタボシイワシ *Sardinella lemuru* の記録および本種の日本における出現状況. *四国自然史科学研究*, 10: 41–46.
- Koeda, K. and H. Motomura. 2017 (May). A new species of *Pempheris* (Perciformes: Pempheridae) endemic to the Ogasawara Islands, Japan. *Ichthyological Research*, doi 10.1007/s10228-017-0586-3 (24 May 2017), 65: 21–28 (14 Jan. 2018)
- Matsunuma, M., T. Yoshida and H. Motomura. 2017 (May). Records of *Spottobrotula mahodadi* (Ophidiiformes: Ophidiidae) and *Hapalogenys bengalensis* (Perciformes: Hapalogenyidae) from the Andaman Sea, with a note on the fresh coloration of *S. mahodadi*. *Species Diversity*, 22 (1): 73–79. Doi: 10.12782/sd.22_73
- Tashiro, S. and H. Motomura. 2017 (May). First Japanese record of the Barred Perchlet, *Plectranthias fourmanoiri* (Perciformes: Serranidae), from the Ryukyu Islands. *Species Diversity*, 22 (1): 81–85. Doi: 10.12782/sd.22_81
- Hata, H., H. Iwatsubo and H. Motomura. 2017 (June). First records of the Cocoa Snapper *Paracaesio stonei* (Perciformes: Lutjanidae) from the Satsunan Islands, Japan. *Fauna Ryukyuna*, 36: 55–62.
- Wilcox, C. L., H. Motomura, M. Matsunuma and B. W. Bowen. 2017 (June). Phylogeographic analyses of four putative lionfish (Pterois) species indicate taxonomic over splitting and hybrid origin for the invasive *Pterois volitans*. *Journal of Heredity*, doi 10.1093/jhered/esx056 (16 June 2017); 2016: 1–14 (10 Aug. 2017)
- Hata, H. and H. Motomura. 2017 (July). First record of the engraulid fish *Encrasicholina macrocephala* (Clupeiformes) from Somalia. *Check List*, 13 (4): 47–51. Doi 10.15560/13.4.47
- Lavoué, S., J. Bertrand, H.-Y. Wang, W.-J. Chen, H.-C. Ho, H. Motomura, H. Hata, T. Sado and M. Miya. 2017 (July). Molecular systematics of the anchovy genus *Encrasicholina* in the Northwest Pacific. *PLoS One*, 12 (7): e0181329. Doi 10.1371/journal.pone.0181329 (28 July 2017)
- Matsunuma, M., Y. Kai and H. Motomura. 2017 (July). First record of the false scorpionfish *Centrogenys vaigiensis* (Perciformes: Centrogenyidae) from the western Indian Ocean. *Cybium*, 41 (3): 290–292.
- Muto, N., U. B. Alama, R. Kakioka, R. P. Babaran and H. Motomura. 2017 (July). First record of *Lutjanus madras* (Perciformes: Lutjanidae) from the Pacific Ocean, with comments on its intraspecific morphological variation. *Cybium*, 41 (3): 295–298.
- Wibowo, K., M. Toda and H. Motomura. 2017 (Aug.). Validity of *Abudefduf caudobimaculatus* Okada and Ikeda 1939 and synonymies of *Abudefduf vaigiensis* (Quoy and Gaimard 1824) (Perciformes: Pomacentridae). *Ichthyological Research*, doi 10.1007/s10228-017-0594-3 (3 Aug. 2017), 65: 78–91 (14 Jan. 2018)
- Kakioka, R., N. Muto, H. Takeshima, A. C. Gaje, R. S. Cruz, U. B. Alama, A. M. T. Guzman, R. Ferdinand, M. Traifalger, R. P. Babaran, O. Muda, W. M. Arshaad, S. Arnupapboon, K. Phuttharaksa, Q. V. Nguyen, T. T. Pham, H. Motomura, F. Muto and S. Ishikawa. 2017 (Aug.). Cryptic genetic divergence in *Scolopsis taenioptera* (Perciformes: Nemipteridae) in the western Pacific Ocean. *Ichthyological Research*, doi 10.1007/s10228-017-0596-1 (7 Aug. 2017), 65: 92–100 (14 Jan. 2018)
- Matsunuma, M. and H. Motomura. 2017 (Aug.). Indian Ocean record of *Brachypterois curvispina* Matsunuma, Sakurai & Motomura, 2013 (Scorpaenidae: Pteroinae) – a misidentification of *B. serrulifer* Fowler, 1938. *FishTaxa*, 2 (3): 123–125.
- Motomura, H., T. Yoshida and V. Vilasri. 2017 (Aug.). New species of the anthiadin genus *Sacura* (Perciformes: Serranidae) from the Andaman Sea. *Zootaxa*, 4306 (2): 291–295. Doi 10.11646/zootaxa.4306.2.10
- Johnson, J. W. and H. Motomura. 2017 (Sept.). Five new species of *Parapercis* (Perciformes: Pinguipedidae) from southeast Asia and northwest Australia. *Zootaxa*, 4320 (1): 121–145. Doi 10.11646/zootaxa.4320.1.7

- Wibowo, K. and H. Motomura. 2017 (Sept.). A new species of the deepwater scorpionfish genus *Phenacoscopus* (Teleostei: Scorpaenidae) from the Galápagos Islands. *Zootaxa*, 4323 (2): 261–268. Doi 10.11646/zootaxa.4323.2.9
- Fricke, R., T. Kawai, T. Yato and H. Motomura. 2017 (Oct.). *Peristedion longicornutum*, a new species of armored gurnard from the western Pacific Ocean (Teleostei: Peristediidae). *Journal of the Ocean Science Foundation*, 8: 90–102.
- Motomura, H., H. Nishiyama and S. N. Chiba. 2017 (Oct.). Review of the *Chromis xanthura* species group (Perciformes: Pomacentridae), with description of a new species. *Ichthyological Research*, doi 10.1007/s10228-017-0601-8 (27 Oct. 2017), 65 (2): 177–191 (17 Mar. 2018)
- Hata, H., H. Iwatsubo, M. Yamada, T. Maekawa and H. Motomura. 2017 (Oct.). First records of *Sphyaena iburiensis* (Perciformes: Sphyaenidae) from the Amami Islands and southern Kyushu, Japan. *Biogeography*, 19: 10–16.
- Koeda, K., T. Yoshida and H. Motomura. 2017 (Oct.). First Japanese and northernmost distributional record of *Pseudoplesiops immaculatus* (Perciformes: Pseudochromidae: Pseudoplesiopinae) from the Tokara Islands. *Biogeography*, 19: 55–60.
- Fujiwara, K., U. B. Alama, M. Okamoto and H. Motomura. 2017 (Oct.). First records of the acropomatid fish (Teleostei: Perciformes), *Parascombrops yamanouei*, from Japan and the Philippines. *Biogeography*, 19: 85–92.
- 藤原恭司・伊東正英・本村浩之. 2017 (Nov.). 鹿児島県から得られた日本初記録のタイ科魚類 *Acanthopagrus taiwanensis* イワツキクロダイ (新称). *魚類学雑誌*, 64 (2): 107–112.
- 藤原恭司・田代郷国・高山真由美・瀬能 宏・本村浩之. 2017 (Nov.). ハタ科イズハナダイ属魚類 *Plectranthias sheni* の日本からの記録と適用すべき標準和名の検討. *魚類学雑誌*, 64 (2): 121–129.
- 萬代あゆみ・松沼瑞樹・本村浩之. 2017 (Nov.). 日本初記録のヤマトシビレエイ科魚類ツキミシビレエイ (新称) *Tetronarce formosa* と本種の標徴に関する新知見, および近縁種との形態比較. *魚類学雑誌*, 64 (2): 157–170.
- 田代郷国・高山真由美・本村浩之. 2017 (Nov.). トカラ列島諏訪瀬島から得られたフジナハナダイ *Plectranthias wheeleri* の国内 2 例目の記録. *魚類学雑誌*, 64 (2): 195–199.
- Wibowo, K. and H. Motomura. 2017 (Nov.). First confirmed record of the Samoan Pipefish *Halicampus matafae* (Perciformes: Syngnathidae) from Japan. *Species Diversity*, 22 (2): 219–223. Doi 10.12782/sd.22_219
- Yoshida, T. and H. Motomura. 2017 (Nov.). Distributional range extension and live coloration of the Indo-Pacific deepwater cardinalfish *Ostorhinchus cheni* (Perciformes: Apogonidae). *Species Diversity*, 22 (2): 225–230. Doi 10.12782/sd.22_225
- Ho, H.-C., H. Motomura, H. Hata and W.-C. Jiang. 2017 (Dec.). Review of the fish genus *Epinnula* Poey (Perciformes: Gempylidae), with description of a new species from the Pacific Ocean. *Zootaxa*, 4363 (3): 393–408. Doi 10.11646/zootaxa.4363.3.5
- Okamoto, M. and H. Motomura. 2017 (Dec.). An additional specimen of a rare lanternbelly *Acropoma lecorneti* (Perciformes: Acropomatidae) from Vanuatu, South Pacific Ocean. *Cybium*, 41 (4): 373–375.
- Fukui, Y. and H. Motomura. 2017 (Dec.). New records of *Oxycheilinus samurai* (Perciformes: Labridae) from Indonesia and New Caledonia. *Cybium*, 41 (4): 376–378.
- Murase, A., R. Miki and H. Motomura. 2017 (Dec.). Southern limits of distribution of the intertidal gobies *Chaenogobius annularis* and *C. gulosus* support the existence of a biogeographic boundary in southern Japan (Teleostei, Perciformes, Gobiidae). *ZooKeys*, 725: 79–95. Doi 10.3897/zookeys.725.19952
- Yoshida, T. and H. Motomura. 2018 (Feb.). Redescription of the Indo-West Pacific cardinalfishes (Perciformes: Apogonidae) *Rhabdamia spilota* Allen & Kuitert 1994 and *R. gracilis* (Bleeker 1856). *Zootaxa*, 4377 (2): 178–190. Doi 10.11646/zootaxa.4377.2.2 (1 Feb. 2018)
- Tashiro, S. and H. Motomura. 2018 (Feb.). Redescriptions of two western Pacific triplefins (Perciformes: Tripterygiidae), *Enneapterygius fuscoventer* and *E. howensis*. *Ichthyological Research*, doi 10.1007/s10228-017-0612-5 (8 Feb. 2018), 65 (2): 252–264 (18 Mar. 2018)
- Tashiro, S., H. Senou and H. Motomura. 2018 (Feb.). *Enneapterygius velatus*, a new deepwater triplefin (Perciformes: Tripterygiidae) from the Ryukyu Islands, southern Japan. *Ichthyological Research*, doi 10.1007/s10228-018-0617-8 (8 Feb. 2018), 65 (3): 346–352 (25 July 2018)
- Hata, H. and H. Motomura. 2018 (Feb.). *Stolephorus continentalis*, a new anchovy from the northwestern South China Sea, and redescription of *Stolephorus chinensis* (Günther 1880) (Clupeiformes:

- Engraulidae). *Ichthyological Research*, doi 10.1007/s10228-018-0621-z (13 Feb. 2018), 65 (3): 374–382 (July 2018)
- 吉田朋弘・木村祐貴・本村浩之. 2018 (Feb.). 鹿児島県口永良部島から得られたテンジクダイ科魚類ヤツトゲテンジクダイ. *日本生物地理学会会報*, 72: 236–241.
- 畑 晴陵・田代郷国・本村浩之. 2018 (Feb.). 与論島から得られた琉球列島初記録のミナミハダカエソ *Lestrolepis luetkeni*. *日本生物地理学会会報*, 72: 277–281.
- 森下悟至・本村浩之. 2018 (Feb.). フサカサゴ科マツバラカサゴ属魚類 *Neomerinthe erostris* ヤブサメカサゴ(新称)の日本からの初記録. *タクサ*, 44: 58–63.
- 藤原恭司・田上英明・毛利雅彦・鎌野 忠・秦 一浩・岡田翔平・永井節子・本村浩之. 2018 (Mar.; dated as Jan.). 山口県響灘および見島から採集された日本海初記録を含む魚類. *水産大学校研究報告*, 66 (2): 47–80.
- Matsunuma, M., Y. Fukui and H. Motomura. 2018 (Mar.). Review of the *Ostichthys japonicus* complex (Perciformes: Holocentridae: Myripristinae) in the northwestern Pacific Ocean, with description of a new species. *Ichthyological Research*, doi 10.1007/s10228-018-0625-8 (5 Mar. 2018), 65 (3): 285–314 (25 July 2018)
- 吉田朋弘・栗岩 薫・本村浩之. 2018 (Mar.). 火山列島から得られたハタ科魚類の稀種モモハナスズキ *Liopropoma pallidum* の記録. *魚類学雑誌*, doi 10.11369/jji.17-038 (9 Mar. 2018)
- 萬代あゆみ・伊東正英・本村浩之. 2018 (Mar.). 鹿児島県から得られた北半球初記録のヒメジ科魚類 *Upeneus spottocaudalis* ユカタヒメジ(新称). *魚類学雑誌*, doi 10.11369/jji.17-056 (23 Mar. 2018)
- 松尾 怜・松沼瑞樹・本村浩之・木村清志. 2018 (Mar.). トラギス科魚類ヤマユリトラギス(新称) *Parapercis kentingensis* の日本における記録. *魚類学雑誌*, doi 10.11369/jji.17-036 (23 Mar. 2018)
- 小枝圭太・本村浩之. 2018 (Mar.). トカラ列島平島から採集されたイボオコゼ科の稀種ヒゲモジャオコゼ: 3 個体目の記録, 北限記録, および生鮮時の色彩の初確認. *魚類学雑誌*, doi 10.11369/jji.18-004 (30 Mar. 2018)
- Hata, H., H. Iwatsubo and H. Motomura. 2018 (Mar.). First record of *Gracila albomarginata* (Perciformes: Serranidae) from the Tokara Islands, Japan. *Biological Magazine Okinawa*, 56: 33–38.

2) 研究論文(査読なし)

- 中村潤平・小枝圭太・畑 晴陵・本村浩之. 2017 (May). 鹿児島県本土初記録のニセゴイシウツボ. *Nature of Kagoshima*, 43: 17–21.
- 畑 晴陵・西田和記・本村浩之. 2017 (May). 鹿児島県坊津町野間池から得られた九州沿岸初記録のキリアナゴ. *Nature of Kagoshima*, 43: 23–26.
- 畑 晴陵・小枝圭太・本村浩之. 2017 (May). 鹿児島県内之浦湾から得られたハモ科魚類ハシナガアナゴ. *Nature of Kagoshima*, 43: 27–30.
- 畑 晴陵・山田守彦・本村浩之. 2017 (May). 内之浦から得られたニシン科魚類ミズン. *Nature of Kagoshima*, 43: 31–36.
- 畑 晴陵・高山真由美・本村浩之. 2017 (May). 種子島から得られたニシン科ヤマトミズン属魚類 2 種: ヤマトミズンとホシヤマトミズンの記録. *Nature of Kagoshima*, 43: 37–44.
- 藤原恭司・本村浩之. 2017 (May). 鹿児島県本土から得られた九州初記録のエソ科魚類チョウチョウエソ. *Nature of Kagoshima*, 43: 45–48.
- 畑 晴陵・山田守彦・本村浩之. 2017 (May). 大隅半島東岸内之浦湾から得られたオグロエソ. *Nature of Kagoshima*, 43: 49–52.
- 稲葉智樹・畑 晴陵・本村浩之. 2017 (May). 宮古島北方から得られた琉球列島初記録のクマノカクレウオ. *Nature of Kagoshima*, 43: 53–55.
- 吉田朋弘・木村祐貴・本村浩之. 2017 (May). 口永良部島から得られたカエルアンコウ科魚類カエルアンコウモドキ. *Nature of Kagoshima*, 43: 63–65.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2017 (May). 鹿児島県初記録のボンボリカエルアンコウ. *Nature of Kagoshima*, 43: 67–70.
- Wibowo, K., S. Tashiro and H. Motomura. 2017 (May). Seahorses of the genus *Hippocampus* (Syngnathidae) from Kagoshima Prefecture, southern Japan, with a new record of *H. mohnikei* Bleeker, 1853. *Nature of Kagoshima*, 43: 71–76.
- 藤原恭司・伊東正英・岩坪洗樹・本村浩之. 2017 (May). トビウオ科魚類シロフチトビウオとチャバナトビウオの鹿児島県本土からの初記録. *Nature of Kagoshima*, 43: 81–87.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2017 (May). 奄美群島江仁屋離島から得られた琉球列島初記録のホウボウ科魚類トゲカナガシラ. *Nature of Kagoshima*, 43: 89–92.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2017 (May). 薩摩半島西岸から得られたクジメ. *Nature of Kagoshima*, 43:

93-100.

- 岩坪洗樹・橋口 亘・本村浩之. 2017 (May). 九州初記録ならびに分布北限記録更新のセスジタカサゴイシモチ. *Nature of Kagoshima*, 43: 101-103.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017 (May). 鹿児島湾から得られたマハタモドキ. *Nature of Kagoshima*, 43: 105-109.
- 吉田朋弘・高山真由美・本村浩之. 2017 (May). トカラ列島中之島から得られた琉球列島初記録のハタ科サクラダイ. *Nature of Kagoshima*, 43: 111-116.
- 吉田朋弘・伊東正英・本村浩之. 2017 (May). 鹿児島県薩摩半島西岸から得られたテンジクダイ科ヒカリイシモチ. *Nature of Kagoshima*, 43: 117-121.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017 (May). 内之浦湾から得られた北限記録のサクラアジ. *Nature of Kagoshima*, 43: 123-126.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017 (May). 鹿児島湾から得られたアジ科魚類マルコバンの記録. *Nature of Kagoshima*, 43: 127-130.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017 (May). 内之浦湾から得られたミナミギンガメアジの記録. *Nature of Kagoshima*, 43: 131-136.
- 小枝圭太・山田守彦・本村浩之. 2017 (May). 内之浦湾から得られた九州沿岸初記録のセンネンダイ. *Nature of Kagoshima*, 43: 137-140.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2017 (May). 鹿児島県から得られたイサキ科魚類2種：オシヤレコシヨウダイおよびエリアカコシヨウダイ. *Nature of Kagoshima*, 43: 141-148.
- 畑 晴陵・高山真由美・本村浩之. 2017 (May). 種子島から得られたイサキ科魚類ヒゲダイ. *Nature of Kagoshima*, 43: 149-153.
- 畑 晴陵・高山真由美・本村浩之. 2017 (May). 種子島から得られた薩南諸島初記録のシャムイトヨリ. *Nature of Kagoshima*, 43: 155-159.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017 (May). 屋久島から得られたタイ科魚類タイワンダイ. *Nature of Kagoshima*, 43: 161-164.
- 萬代あゆみ・畑 晴陵・本村浩之. 2017 (May). 鹿児島県から得られたフエフキダイ科魚類オオフエフキ. *Nature of Kagoshima*, 43: 165-168.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017 (May). トカラ列島から得られたフエフキダイ科魚類ヨコシマフエフキ. *Nature of Kagoshima*, 43: 169-174.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017 (May). 薩摩川内市沿岸から得られたサザナミヤッコ. *Nature of Kagoshima*, 43: 175-179.
- 小枝圭太・木村祐貴・本村浩之. 2017 (May). 口永良部島から採集されたクダゴンベの記録. *Nature of Kagoshima*, 43: 181-184.
- 岩坪洗樹・本村浩之. 2017 (May). 種子島からの標本に基づくアオバスズメダイの記録. *Nature of Kagoshima*, 43: 185-188.
- 岩坪洗樹・橋口 亘・本村浩之. 2017 (May). 九州初記録のユゴイ科魚類オオクチユゴイ. *Nature of Kagoshima*, 43: 189-192.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2017 (May). 鹿児島県から得られたエボシダイ科魚類エボシダイ. *Nature of Kagoshima*, 43: 193-196.
- 畑 晴陵・岩坪洗樹・本村浩之. 2017 (May). 鹿児島湾から得られたオオメメダイ科魚類ミナミメダイ. *Nature of Kagoshima*, 43: 197-200.
- 小枝圭太・畑 晴陵・前川隆則・本村浩之. 2017 (May). 奄美大島から得られた分布北限記録のシロオビブダイ. *Nature of Kagoshima*, 43: 207-210.
- 田代郷国・本村浩之. 2017 (May). ヘビギンボ科ヒメギンボの鹿児島県における分布状況と性的二型に関する形態学的知見. *Nature of Kagoshima*, 43: 211-217.
- 川間公達・伊東正英・本村浩之. 2017 (May). 鹿児島県薩摩半島から得られたイソギンボ科オボロゲタガミカエルウオ. *Nature of Kagoshima*, 43: 219-222.
- 藤原恭司・本村浩之. 2017 (May). 奄美群島から得られたウバウオ科魚類2種：タスジウミシダウバウオとホソウバウオ. *Nature of Kagoshima*, 43: 223-229.
- 藤原恭司・岡本 誠・本村浩之. 2017 (May). トカラ列島西方から得られた琉球列島初記録のハゼ科魚類ホオベニオトヒメハゼ. *Nature of Kagoshima*, 43: 231-234.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017 (May). 宇治群島から得られた鹿児島県2例目のキビレカワハギ. *Nature of Kagoshima*, 43: 235-238.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2017 (May). 九州沿岸から初めて得られたフグ科魚類オキナワフグ. *Nature of Kagoshima*, 43: 239-242.
- 福井美乃・本村浩之. 2017 (May). トカラ列島臥蛇島沖で観察されたホシフグの繁殖行動. *Nature of*

- Kagoshima, 43: 243-247.
- 小枝圭太・本村浩之. 2017 (May). 鹿児島大学総合研究博物館に所蔵されている胃内容物魚類標本. *Nature of Kagoshima*, 43: 257-269.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017 (June). 鹿児島湾から得られたフエダイ科魚類バラヒメダイ. *南紀生物*, 59 (1): 67-70.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017 (July). 長崎県西海市から得られたエボシダイ科魚類ハナビラウオ. *長崎県生物学会誌*, 80: 7-9.
- 畑 晴陵・前川隆則・中江雅典・本村浩之. 2017 (Nov.). 奄美大島から得られたミナミメダイ. *Nature of Kagoshima*, 44: 13-16.
- 畑 晴陵・前川隆則・栗岩 薫・中江雅典・本村浩之. 2017 (Nov.). 奄美大島から得られた薩南諸島初記録および北限記録のワニトラギス. *Nature of Kagoshima*, 44: 17-20.
- 畑 晴陵・前川隆則・栗岩 薫・中江雅典・本村浩之. 2017 (Nov.). 奄美大島から得られた薩南諸島初記録および北限記録のイトヨリダイ科魚類ジャバイトヨリ. *Nature of Kagoshima*, 44: 21-25.
- 畑 晴陵・前川隆則・中江雅典・本村浩之. 2017 (Nov.). 奄美大島から得られたアジ科魚類3種: ミナミギンガメアジ, オニアジ, およびホソヒラアジ. *Nature of Kagoshima*, 44: 27-35.
- 畑 晴陵・岩坪洗樹・本村浩之. 2017 (Nov.). 奄美大島から得られたギス科魚類ギス. *Nature of Kagoshima*, 44: 37-40.
- 畑 晴陵・前川隆則・中江雅典・本村浩之. 2017 (Nov.). 奄美大島から得られたクロタチカマス科魚類ナガタチカマス. *Nature of Kagoshima*, 44: 41-45.
- 畑 晴陵・前川隆則・中江雅典・本村浩之. 2017 (Nov.). 奄美大島から得られたサバ科魚類ニジョウサバ. *Nature of Kagoshima*, 44: 73-76.
- 畑 晴陵・大富 潤・本村浩之. 2018 (Feb.). トカラ列島から得られた鹿児島県初記録および北限記録の準絶滅危惧種アマクチビ (スズキ目: フエフキダイ科). *Nature of Kagoshima*, 44: 95-99.
- 藤原恭司・伊東正英・Kunto Wibowo・本村浩之. 2018 (Feb.). 鹿児島県から採集された準絶滅危惧種ハナザメのアルビノ. *Nature of Kagoshima*, 44: 151-155.
- 畑 晴陵・山田守彦・本村浩之. 2018 (Feb.). 鹿児島県から得られたカラチョウザメの形態学的・生態学的知見. *Nature of Kagoshima*, 44: 157-161.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2018 (Mar.). 薩摩半島西岸から得られたエビスシイラ. *Nature of Kagoshima*, 44: 211-214.
- 岩坪洗樹・原崎 森・本村浩之. 2018 (Mar.). タンボボスズメダイの水中写真に基づく屋久島からの記録. *Nature of Kagoshima*, 44: 221-223.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2018 (Mar.). 鹿児島県から得られたコバンザメ科魚類シロコバン. *Nature of Kagoshima*, 44: 249-252.
- 畑 晴陵・前川隆則・本村浩之. 2018 (Mar.). 奄美大島から得られたフエダイ科魚類バケアカムツ. *Nature of Kagoshima*, 44: 253-256.
- 畑 晴陵・川間公達・本村浩之. 2018 (Mar.). 宇治群島から得られた魚類3種の記録. *Nature of Kagoshima*, 44: 257-264.
- 川間公達・本村浩之. 2018 (Mar.). 奄美群島沖永良部島から得られたモンガラカワハギ科ソロイモンガラ. *Nature of Kagoshima*, 44: 265-268. (27 Mar. 2018)
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018 (Mar.). An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo (52): 205-361.

3) 書籍

- 本村浩之 (監). 2017 (June). 魚類. Pp. 154-169. さわるな! 猛毒危険生物のひみつ 100. 学研プラス, 東京. 208 pp.
- 岩坪洗樹・本村浩之 (編). 2017 (Oct.). 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 302 pp., 618 figs.
- 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編). 2018 (Mar.). 黒潮あたる鹿児島湾の海 内之浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市. 520 pp., 1059 figs.
- 本村浩之 (監). 2018 (Mar.). 魚類. ? (はてな) に答える! 生き物事典. 小学パーフェクトコース. 学研プラス, 東京. 681 pp.
- 本村浩之 (監)・公益財団法人鹿児島市水族館公社 (編). 2018 (Mar.). ~かごしま水族館が確認した~ 鹿児島市の定置網の魚たち. 増訂版. 財団法人鹿児島市水族館公社, 鹿児島市. 336 pp.
- 本村浩之. 2018 (Mar.). フサカサゴ科・ツバメコノシロ科. Pp. 210-213, 328-329. 中坊徹次 (編) 小学館の

図鑑 Z 日本魚類館. 小学館, 東京. Xvi + 528 pp.

4) その他の出版物

Pippard, H., G. Ralph, M. Harvey, K. Carpenter, J. Buchanan, M. Fancourt, D. Greenfield, H. Harwell, H. Larson, A. Lawrence, C. Linardich, K. Matsuura, H. Motomura, T. Munroe, R. Myers, C. Pollock, B. Russell, W. Smith-Vaniz, J.-C. Vie, R.R. Thaman, J. Williams and I. Williams. 2017 (June). The conservation status of marine biodiversity in the Pacific Islands of Oceania. International Union for Conservation of Nature and Natural Resources (IUCN) Oceania Regional Office, Suva, Fiji. 59 pp.

本村浩之. 2017 (Sept.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 1 カボチャフサカサゴ. さくらじまの海, 21 (2): 6.

本村浩之. 2017 (Nov.). 第4節 海の動植物. 1 与論島の魚類. Pp. 54-56. 与論町教育委員会 (編). 与論町誌追録版, 与論町.

本村浩之. 2017 (Dec.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 2 ユウダチスダレダイ. さくらじまの海, 21 (3): 8.

本村浩之. 2018 (Jan.). 鹿児島大学の海外フィールド調査. 2017年度アンコール遺跡整備公団インターンシップ報告書, 79-80.

本村浩之. 2018 (Jan.; dated as Dec. 2017). 刊行によせて. P. 2. 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯苦 健・小枝圭太 (編). 緑の活火山 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市.

本村浩之. 2018 (Mar.). 沖永良部島の魚類相調査. 南太平洋海域調査研究報告, 59: 93-94.

本村浩之. 2018 (Mar.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 3 サクヤヒメジ. No. 4 アカネヒメジ. さくらじまの海, 21 (4): 8.

5) 学会・シンポジウム等発表

藤原恭司・田代郷国・高山真由美・瀬能 宏・本村浩之. 2017 (3-4 June). ハタ科イヅハナダイ属魚類 *Plectranthias sheni* の日本からの記録と適用すべき標準和名の検討. 日本動物分類学会第53回大会. 海洋研究開発機構 横浜研究所, 横浜市.

村瀬敦宣・三木涼平・和田正昭・本村浩之・瀬能 宏. 2017 (22 July). 南九州海域から得られた絶滅危惧ハタ科魚類カスリハタとその分布パターン. 第11回水生生物勉強会. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター 延岡フィールド, 延岡市.

三木涼平・村瀬敦宣・和田正昭・星野和夫・小枝圭太・本村浩之・瀬能 宏. 2017 (22 July). 東九州沿岸における熱帯性散発種の出現状況. 第11回水生生物勉強会. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター 延岡フィールド, 延岡市.

Koeda, K. and H. Motomura. 2017 (22-24 Aug.). Sweepers (Teleostei: Perciformes: Pempheridae) in the Ogasawara Islands, Japan, with an undescribed species of the genus *Pempheris*. The Annual Meeting of the Asian Society of Ichthyologists. Hotel Equatorial, Ho Chi Minh City, Vietnam.

Hata, H. and H. Motomura. 2017 (22-24 Aug.). An undescribed species of the anchovy genus *Stolephorus* (Clupeiformes: Engraulidae) from Southeast Asia. The Annual Meeting of the Asian Society of Ichthyologists. Hotel Equatorial, Ho Chi Minh City, Vietnam.

Miki, R., A. Murase, M. Wada, K. Koeda, K. Hoshino, H. Motomura and H. Senou. 2017 (22-24 Aug.). Tropical marine fish aggregations along the eastern coast of Kyushu, Japan, northwestern Pacific Ocean, with an assessment of influence of the Kuroshio Current. The Annual Meeting of the Asian Society of Ichthyologists. Hotel Equatorial, Ho Chi Minh City, Vietnam.

中村潤平・本村浩之. 2017 (16-17 Sept.). イトヨリダイ科魚類メガネタマガシラ *Scolopsis taenioptera* に認められた形態的二型. 第50回日本魚類学会年会. 北海道大学, 函館市. Poster

森下悟至・河合俊郎・本村浩之. 2017 (16-17 Sept.). インドネシア・バリ島から得られたメバル科カサゴ属の1未記載種. 第50回日本魚類学会年会. 北海道大学, 函館市. Poster

川間公達・瀬能 宏・武藤望生・本村浩之. 2017 (16-17 Sept.). イソギンポ科タマカエルウオ属魚類ヤセタマカエルウオ *Alticus orientalis* Tomiyama, 1955 の有効性. 第50回日本魚類学会年会. 北海道大学, 函館市. Poster

萬代あゆみ・松沼瑞樹・本村浩之. 2017 (16-17 Sept.). 日本初記録のヤマトシビレエイ科魚類 *Tetronarce formosa*. 第50回日本魚類学会年会. 北海道大学, 函館市. Poster

上城拓也・瀬能 宏・本村浩之. 2017 (16-17 Sept.). 東シナ海とフィリピンから得られたチョウチョウウオ科ゲンロクダイ属の1未記載種. 第50回日本魚類学会年会. 北海道大学, 函館市. Poster

稲葉智樹・本村浩之. 2017 (16-17 Sept.). オニオコゼ科オニオコゼ属の分類学的再検討. 第50回日本魚類学会年会. 北海道大学, 函館市. Poster

松沼瑞樹・福井美乃・U. B. Alama・本村浩之. 2017 (16-17 Sept.). 北西太平洋におけるイトウダイ科エビスダイ類似種群の分類学的再検討. 第50回日本魚類学会年会. 北海道大学, 函館市. Poster

- 藤原恭司・岡本 誠・本村浩之. 2017 (16-17 Sept.). 日本産ウバウオ科ヨザクラウバウオ属の分類学的再検討. 第50回日本魚類学会年会. 北海道大学, 函館市. Oral
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017 (16-17 Sept.). ニシン科オグロイワシ類似種群の分類学的再検討. 第50回日本魚類学会年会. 北海道大学, 函館市. Oral
- 田代郷国・本村浩之. 2017 (16-17 Sept.). 西太平洋におけるヘビギンボ科クロマスク *Helcogramma fuscipectoris* 類似種群の分類学的再検討. 第50回日本魚類学会年会. 北海道大学, 函館市. Oral
- 小枝圭太・藤井琢磨・本村浩之. 2017 (16-17 Sept.). 奄美大島から採集されたチンアナゴ属の1未記載種. 第50回日本魚類学会年会. 北海道大学, 函館市. Oral
- 栗岩 薫・吉田朋弘・田代郷国・本村浩之・瀬能 宏. 2017 (16-17 Sept.). 日本最後の秘境 ~ 火山列島 (北硫黄島・硫黄島・南硫黄島) の魚類相と生物地理. 第50回日本魚類学会年会. 北海道大学, 函館市. Oral
- 武藤望生・柿岡 諒・V. Vilasri・R. P. Babaran・U. B. Alama・N. Van Quan・M. A. Ghaffar・武藤文人・本村浩之・武島弘彦・石川智士. 2017 (16-17 Sept.). 南シナ海における魚類の比較系統地理. セッション「東南アジア諸国との連携による魚類多様性研究」. 第50回日本魚類学会年会. 北海道大学, 函館市. Oral
- 福井美乃・U. B. Alama・本村浩之. 2017 (16-17 Sept.). フィリピン大学魚類コレクションの創設とパナイ島の魚類多様性調査. セッション「東南アジア諸国との連携による魚類多様性研究」. 第50回日本魚類学会年会. 北海道大学, 函館市. Oral
- 本村浩之・松沼瑞樹・B. M. Manjaji-Matsumoto・A. Arshad・M. A. Ghaffar・Y. G. Seah. 2017 (16-17 Sept.). マレーシアにおける現地と連携した魚類多様性調査. セッション「東南アジア諸国との連携による魚類多様性研究」. 第50回日本魚類学会年会. 北海道大学, 函館市. Oral
- Fujiwara, K., H. Hayashi and H. Motomura. 2017 (2-6 Oct.). An undescribed species of the genus *Pherallodichthys* (Gobiesocidae) from southern Japan. The 10th Indo-Pacific Fish Conference. Maison de la culture de Tahiti, Papeete, Tahiti, French Polynesia. Poster
- Wibowo, K., M. Toda, S. Harazaki and H. Motomura. 2017 (2-6 Oct.). Taxonomic and ecological studies on *Abudefduf caudobimaculatus* and *Abudefduf vaigiensis* (Perciformes: Pomacentridae). The 10th Indo-Pacific Fish Conference. Maison de la culture de Tahiti, Papeete, Tahiti, French Polynesia. Poster
- Fukui, Y. and H. Motomura. 2017 (2-6 Oct.). Two undescribed species of the genus *Iniiistius* (Labridae) from Australia and the Philippines. The 10th Indo-Pacific Fish Conference. Maison de la culture de Tahiti, Papeete, Tahiti, French Polynesia. Poster
- Matsunuma, M. and H. Motomura. 2017 (2-6 Oct.). Review of the Indo-West Pacific genus *Parapteroia* (Scorpaenidae: Pteroinae). The 10th Indo-Pacific Fish Conference. Maison de la culture de Tahiti, Papeete, Tahiti, French Polynesia. Poster
- Motomura, H. and H. Senou. 2017 (2-6 Oct.). The Osumi Line: a newly recognized major biogeographical boundary line for fishes in southern Japan. The 10th Indo-Pacific Fish Conference. Maison de la culture de Tahiti, Papeete, Tahiti, French Polynesia. Poster
- Muto, N., R. Kakioka, V. Vilasri, R. Babaran, U. Alama, V. Q. Nguyen, M. A. Ghaffar, H. Takeshima, F. Muto, H. Motomura and S. Ishikawa. 2017 (2-6 Oct.). Comparative phylogeography of fishes in the South China Sea. The 10th Indo-Pacific Fish Conference. Maison de la culture de Tahiti, Papeete, Tahiti, French Polynesia. Oral
- Yoshida, T., N. Muto and H. Motomura. 2017 (2-6 Oct.). Taxonomic review of the cardinalfish genus *Apogon* (Apogonidae) in Japan. The 10th Indo-Pacific Fish Conference. Maison de la culture de Tahiti, Papeete, Tahiti, French Polynesia. Oral
- Tashiro, S. and H. Motomura. 2017 (2-6 Oct.). Review of the triplefin genus *Helcogramma* (Tripterygiidae) in Japanese waters with two undescribed species. The 10th Indo-Pacific Fish Conference. Maison de la culture de Tahiti, Papeete, Tahiti, French Polynesia. Oral
- Hata, H. and H. Motomura. 2017 (2-6 Oct.). Taxonomic status of five nominal species in the genus *Stolephorus* (Clupeiformes: Engraulidae). The 10th Indo-Pacific Fish Conference. Maison de la culture de Tahiti, Papeete, Tahiti, French Polynesia. Oral
- 本村浩之. 2018 (11 Jan.). 鹿児島大学における海外遺伝資源利用の実情. 平成29年度鹿児島大学トップセミナー「日本の国内措置 ABS 指針と学術における対応」. 鹿児島大学事務局第三会議室, 鹿児島市.
- 三木涼平・村瀬敦宣・和田正昭・小枝圭太・星野和夫・本村浩之・瀬能 宏. 2018 (17-18 Feb.). 東九州における熱帯性魚類の出現状況と緯度的・季節的差異の検討. 第29回魚類生態研究会, 国立江田島青少年交流の家海洋研修館, 江田島市.
- 本村浩之. 2018 (19 Feb.). トカラ列島の魚類多様性調査. 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター「重点領域

研究（島嶼）トカラ列島調査報告会」. 鹿児島大学総合教育研究棟, 鹿児島市.

(3) 外部資金

- 日本学術振興会 研究拠点形成事業－B. アジア・アフリカ学術基盤形成型－「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」(分担)
- 日本学術振興会 科研費基盤研究(A)「亜熱帯島嶼生態系における水陸境界域の生物多様性保全の研究」(分担)
- 日本学術振興会 科研費基盤研究(B)(海外学術調査)「カンボジアのトンレサップ湖における生物多様性維持機構の再評価」(分担)
- 国立科学博物館 「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究」
- 文部科学省 特別経費－地域貢献機能の充実－「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」(分担)

(4) 社会貢献・学外活動

- 日本魚類学会 代議員
- 日本魚類学会 ABS 対策チーム 委員
- 日本生物地理学会 評議員
- 国際自然保護連合 種の保存委員
- オーストラリア博物館 客員研究員
- インド・太平洋魚類国際会議 運営委員会 委員
- マレーシア・トレンガヌ大学人事委員会 委員
- 金沢大学環日本海域環境研究センター 外来研究員
- かごしま水族館 評議員
- 鹿児島県自然環境保全協会 理事
- 鹿児島県純心女子短期大学 非常勤講師
- 桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会 委員
- The Philippine Journal of Systematic Biology Editorial Board
- 特別研究員等審査会委員・国際事業委員会書面審査員
- Organizer for Integrative Approaches in Understanding Fish Diversity: Morphology, Systematics, Taxonomy and Biogeography at Indo-Pacific Fish Conference in Tahiti

(5) 学内委員等

- 総合研究博物館 館長
- 総合研究博物館人事選考委員会 委員長
- 企画・評価委員会 委員
- 大学院連合農学研究科入試委員会 委員
- 男女共同参画推進センター 委員
- グローバルセンター 兼務教員
- 国際島嶼教育研究センター 兼務教員
- 国際島嶼教育研究センター 交流企画部会委員
- 国際島嶼教育研究センター 9分野 島嶼適応領域 島嶼教育分野担当

(6) 主な調査研究（学会や会議は除く）

- 2017年4月22-25日 悪石島の魚類相調査
- 2017年5月28日-6月3日 トンレサップ湖の魚類多様性調査
- 2017年6月12-14日 京都大学所蔵魚類標本調査
- 2017年6月27日-7月6日 与論島の魚類相調査
- 2017年7月15-23日 タンザニアの魚類調査・IUCN 絶滅危惧種評価委員会 in ザンジバル
- 2017年8月11-19日 マレーシア・トレンガヌ大学
- 2017年8月21日-9月4日 ベトナムとカンボジアの魚類調査
- 2017年9月7日 宮崎大学所蔵魚類標本調査

(7) 報道関係

- 世界さまぁ〜リポート. タヒチ・ボラボラ島 最高級に楽しんじゃおうSP!. TBS, 2017年4月15日, 0:00～(魚の同定と解説)

世界さまぁ〜リゾート。タヒチ島の素朴な疑問解消 SP。TBS, 2017 年 4 月 22 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
「トビイシハナダイ」与論で国内初。鹿大院生・田代さんが命名。南日本新聞, 2017 年 5 月 24 日
西郷も魚捕った? 甲突川で投網に挑戦。朝日新聞, 2017 年 5 月 24 日
「知」の価値。南日本新聞, 2017 年 5 月 25 日
国内未確認のハタ 与論島の海で発見 トビイシハナダイと命名。朝日新聞, 2017 年 5 月 26 日
世界さまぁ〜リゾート。インドネシア・バリ島 知って得する情報 SP。TBS, 2017 年 5 月 27 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
Watch a strange 'Walking Fish' that has experts stumped. National Geographic, 2 June 2017 (interview and comments)
世界さまぁ〜リゾート。インドネシア・バリ島 パワースポット SP。TBS, 2017 年 6 月 3 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
赤道直下の密林に怪魚を追う。怪魚ハンターが行く! NHK BS プレミアム, 2017 年 7 月 1 日, 21:00 ~ 23:00 (魚の同定と解説)
屋久島北限の川魚 本土に。南さつもの河口近くで採取。読売新聞, 2017 年 7 月 9 日
Diving the Philippines? Discover a jewel of marine biodiversity. Travel Stories, 14 July 2017
小笠原諸島で新種の魚か 半世紀ぶり調査。毎日新聞, 2017 年 8 月 8 日
小笠原・火山列島 49 年ぶり調査。新種? カレイ発見。南日本新聞, 2017 年 8 月 10 日
古木の島、水の旅 屋久島。月刊 Diver, 435: 22-35, 2017 年 8 月 10 日 (屋久島の生物多様性解説)
Invasive lionfish may be superfish hybrids. The fish taking over the Caribbean is a hybrid of two Indo-Pacific lionfish species. Hakai Magazine, 16 Aug. 2017 (ミノカサゴの解説)
世界遺産。小笠原諸島。TBS 系列, 2017 年 8 月 20 日, 18:00 ~ (魚類相の解説)
江戸前鮨の花形コハダ。ごはんジャパン。テレビ朝日, 2017 年 9 月 2 日, 18:30 ~ (コノシロの解説)
鹿児島島の魚 図鑑作り奔走。南日本新聞, 2017 年 9 月 12 日
世界さまぁ〜リゾート。マルタ 離島 大調査 SP。TBS, 2017 年 9 月 22 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
Lionfish: the perfect invader. Oxford University Press's Academic Insights for the Thinking World, 15 Oct. 2017
鹿児島湾の魚 494 種紹介。水圏生物博物館などが図鑑。読売新聞, 2017 年 11 月 30 日
世界さまぁ〜リゾート。ガラパゴスの素朴な疑問 SP。TBS, 2017 年 12 月 2 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
鹿児島湾の魚図鑑発行 494 種、標本写真で紹介。南日本新聞, 2017 年 12 月 8 日
鹿児島島の海で魚 5 種初確認 鹿大博物館チーム。南日本新聞, 2017 年 12 月 8 日
海に恋して 森を愛して〜4K で描く奄美〜。NHK 総合, 2017 年 12 月 8 日, 19:30 ~ 19:56 ; 12 月 10 日, 7:45 ~ 8:11 ; 2018 年 1 月 3 日, 18:15 ~ 18:58
世界さまぁ〜リゾート。ガラパゴス諸島の王道 & 意外なスポット SP。TBS, 2017 年 12 月 23 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
よみこの無人島 0 円生活 2017 元祖無人島芸人・よるこ vs 破天荒ディレクター・ナス D。テレビ朝日, 2017 年 12 月 29 日, 18:30 ~ (魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート。パラオの絶景スポットドローンビュー SP。TBS, 2018 年 1 月 6 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート。日本人観光客に聞いた、パラオの穴場スポット SP。TBS, 2018 年 1 月 13 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート。天国に一番近い島 ニューカレドニア SP。TBS, 2018 年 2 月 3 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
満天★青空レストラン。日本テレビ, 2018 年 2 月 10 日, 18:30-19:00 (魚の同定と解説)
陸機空 地球征服するなんて。テレビ朝日, 2018 年 2 月 14 日, 21:58 ~ (魚の同定と解説)
ザ・フィッシング。テレビ大阪系列, 2018 年 2 月 17 日, 17:30 ~ (解説)
かごしま 4。MBC 南日本放送, 2018 年 2 月 28 日, 15:50 ~ (解説)
世界さまぁ〜リゾート。藤田ニコルがサイパンの気になるスポットを現地調査 SP ! TBS, 2018 年 3 月 10 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート。番組 5 周年 さま〜ずホンネ 2 人旅 in ニューカレドニア。TBS, 2018 年 3 月 17 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート。番組 5 周年 さま〜ずホンネ 2 人旅 in ニューカレドニア 2 週目。TBS, 2018 年 3 月 24 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)
世界さまぁ〜リゾート。番組 5 周年 さま〜ずホンネ 2 人旅 in ニューカレドニア 完結編。TBS, 2018 年 3 月 31 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)

福元しげ子 [助手]

(1) 教育活動

その他

インターンシップ担当

(2) 研究活動

1) 研究論文 (査読無)

福元しげ子. 2017 (May). 宇治群島宇治島のアリ. *Nature of Kagoshima*, 43: 295-296.

福元しげ子. 2018 (Mar.). 薩南諸島のアリ相の調査と放浪種アリ類. *南太平洋海域調査研究報告*, 59: 27-28.

2) その他出版物

福元しげ子. 2017 (May). Information 鹿児島大学総合研究博物館. *Nature of Kagoshima* 43 : 487-490.

3) 調査研究

2017年6月19日：鹿児島新港における外来アリモニタリング調査

2017年6月25日：鹿児島新港における外来アリモニタリング調査

2017年7月1日：鹿児島新港における外来アリモニタリング調査

2017年8月22日～23日：奄美群島喜界島におけるアリ類サンプリング調査

2017年11月21日～22日：奄美大島におけるアリ類サンプリング調査

2018年3月9日～10日：奄美大島および奄美群島枝手久島におけるアリ類サンプリング調査

4) 学会・シンポジウム発表

Fukumoto, S. 2017(26-28 Oct). Seasonal change in the worker activity of the tramp ant *Technomyrmex brunneus* in warm temperate Japan. International Conference in Zoological Sciences and Ants(11th ANeT), Department of Zoology and Environmental Sciences, Punjabi University Patiala, India.

(3) 報道関係

2017年7月2日「鹿児島新港にアシナガキアリ警戒呼び掛け」南日本新聞

9 2017年度 ポスター



鹿児島大学
総合研究博物館
第17回特別展



アジア熱帯植物 の不思議世界

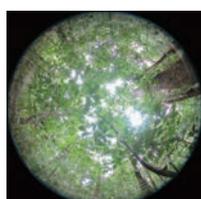
Mysterious Plant World in the Tropical Asia



アジア熱帯林で見られる
多種多様な植物について、
鹿児島の亜熱帯の植物とも比較しながら、
標本や写真で紹介します。

日時 平成29年10月2日(月)～10月29日(日) 10:00～17:00
休館日:10月7日(土)・8日(日)・9日(月)
オープニング展示解説:10月2日(月)13:00～

場所 鹿児島大学郡元キャンパス
中央図書館ギャラリー“アトリウム”
入場無料



特別展関連企画
第34回市民講座
**「アジアの熱帯に見られる
植物達の多様な世界」**
講師 鈴木英治(鹿児島大学理学部)
日時 平成29年10月21日(土)
13:00～15:00
場所 鹿児島大学郡元キャンパス
理学部1号館1F 101号室
聴講無料



鹿児島大学総合研究博物館 [890-0065鹿児島市郡元1-21-30, 099-285-8141]



鹿兒島大学総合研究博物館 第17回自然体験ツアー
開聞岳の植物垂直分布観察会 参加者募集

標高928mの開聞岳、そこには約9千年前にできた新火山への植物の侵入史と、標高に对应した垂直分布をみる事ができます。

日時 2017年4月29日(土) 9:00集合 16:30解散
案内者 鈴木英治(鹿兒島大学理工学研究所教授)・博物館スタッフ
集合場所 かいもん山麓ふれあい公園 無料駐車場付近
指宿市開聞十町2626番地 tel:0993-32-5566 (開聞山麓自然公園とは別)

参加条件 開催日時 中学生以上の方
登山口・山頂の標高差は800mありますので、ある程度体力のある方
100円(保険料など)当日徴収
参加費 参加希望の方は、
申込み方法 ①お名前(ふりがな)・年齢・性別・住所(郵便番号)
②人数(同行者がいる場合、先の①の情報)
③連絡先電話番号、メールアドレスをご記入の上、メールまたはFAXでお知らせください。
メール:info(〒)kaum.kagoshima-u.ac.jp (〒)を削りに換えてご利用ください。
FAX:099-285-7267

応募締切 2017年4月13日(金)16:00 必着
募集定員 10~15名(受付順)
注意事項 少雨決行、大雨の場合は中止(メール等で連絡します)。
4月18日(木)13:00までに当館から連絡のない場合にはご一報下さい。
参加者の当日の持ちもの、定員のためご参加いただけない場合など、後日こちらから連絡します。

※ 迷惑メール対策のためにスマートフォンや携帯電話のメール設定でドメイン指定受信をされている方はメールが届かないことがあります。
※ 個人情報、この企画の目的以外には使用いたしません。

問い合わせ先
鹿兒島大学総合研究博物館 Tel:099-285-8141

鹿兒島大学総合研究博物館 第24回 研究交流会

榛名火山爆発と火砕流 により埋もれた 古墳時代の人馬とムラ

—群馬県金井東裏・下新田遺跡の調査から—

1500年前 榛名山の轟きに「ヨロイを着て立ち向かった男」
そこに生きた人びと、馬たちに襲いかかった災害
今、あざやかによみがえる



日時: 2017年6月24日(土) 14:30~16:00
場所: 郡元キャンパス 共通教育311号室(3号館1階)

杉山 秀宏
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



鹿兒島大学総合研究博物館
099-285-8141
http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/



鹿兒島大学総合研究博物館
第33回市民講座

戦国時代の井伊谷と 浜松の城

—井伊直虎の時代—

講師: 鈴木一有
(浜松市文化財課)

2017年7月22日(土) 14:30~16:00
場所: 鹿兒島大学郡元キャンパス
共通教育311号室(3号館1階)
入場無料(どなたでも参加下さい)

鹿兒島大学総合研究博物館
問い合わせ: 099-285-8141
http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/



鹿兒島大学総合研究博物館第34回市民講座

「アジアの熱帯に見られる 植物達の多様な世界」

Plant Species Diversity in the Tropical Asia

講師: 鈴木英治(鹿兒島大学理学部)
日時: 平成29年10月21日(土)
13:00~15:00
場所: 鹿兒島大学郡元キャンパス
理学部1号館1F 101号室
聴講無料

世界でも最も多様性が高い地域の一つであるアジアの熱帯林には板根・幹生花など様々な形態の植物がみられます。またフタバガキ科、ヤシ科、フナ科などでは種分化が著しい。薩南諸島の亜熱帯林にもその一部が到達しているこのような熱帯植物の多様な世界の魅力を説明します。

鹿兒島大学総合研究博物館 [890-0005鹿兒島市郡元1-21-30, 099-285-8141]

日本学術振興会 科研費 基盤研究B
X線CT調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび
歴史学的研究 (研究代表者: 橋本達也・1920～2019年度)

科学研究費公開
研究会
X線CT
×
島内139号地下式横穴墓
-X線CT調査による古墳時代甲冑の研究-

2017年9月9日(土)
会場: 福岡大学 中央図書館 1F 多目的ホール 福岡市城南区七郎 8-17-1
地下鉄七隈線福大前7分～徒歩

福岡大学アクセス 福岡大学図書館マップ

13:00-13:40 橋本 達也 (鹿児島大学総合研究博物館)
X線CT調査による古墳時代甲冑の研究と
島内139号地下式横穴墓の調査

13:40-14:05 河野 一隆 (九州国立博物館)
X線CTの活用と次世代の博物館

14:05-14:30 阪口 英毅 (京都市立文学部文学研究科)
X線CT調査による短甲の研究

【休憩】

14:40-15:05 鈴木 一有 (浜松市文化財課)
X線CT調査による衝角付冑の研究

15:05-15:30 塚本 敏夫 ((公財)元興寺文化財研究所)
古墳時代甲冑の科学分析におけるX線CTの位置と展望

15:30-15:55 古谷 毅 (東京国立博物館)
三次元計測・X線CT調査と古墳時代甲冑研究の課題

【小林】
16:00-16:30 質疑応答

Shimauli 139

鹿児島大学総合研究博物館
九州国立博物館
えびの市教育委員会
協力: 福岡大学人文学部考古学研究室
お問い合わせ: 鹿児島大学総合研究博物館 099-285-8141

アマミノシノラフグだけじゃなかった!?
大島海峡、いきもの新発見
写真展

海も国立公園

入場無料

2017 8/6(日)～9/10(日)
瀬戸内町立図書館・郷土館 2階小ホール
開館時間 9:00～18:00(日曜、祝日～17:00) 月曜休館
問い合わせ 0997-72-1600

共催: 鹿児島大学「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」プロジェクト、瀬戸内町立図書館・郷土館
後援: 鹿児島大学国際教育センター、鹿児島大学総合研究博物館

古仁屋
瀬相
生間

10 鹿児島高等農林学校「昭和四年得業記念樹碑」解説板データ

鹿児島高等農林学校 得業記念植樹碑

鹿児島大学農学部の前身、鹿児島高等農林学校では卒業のことを、得業といい、その記念に明治45(1912)年の第1回得業以来、学術的に貴重な植物を選んで植樹を行いました。

初代校長 玉利喜造は「優美にしてかつ有益なる習慣」として『記念植樹規定十則』を制定しています。これには石碑(標石)の設置も定められていました。

ここにある石碑は昭和4(1929)年の得業記念植樹の際に建てられたものです。

なお、第1回の得業記念樹は大学正門正面のソテツで石碑も現存します。ほかに記念樹は2本、石碑2点が構内に現存しています。



昭和4(1929)年の得業生102名と教職員



昭和4年の得業記念植樹と石碑
記念樹名は Cocos Datil Drude et Griseb と石碑に刻む
(ジョウワヤシ)

 鹿児島大学総合研究博物館

鹿児島県枕崎市 市場の魚120

鹿児島県枕崎市の市場に水揚げされる魚類の中から120種を紹介



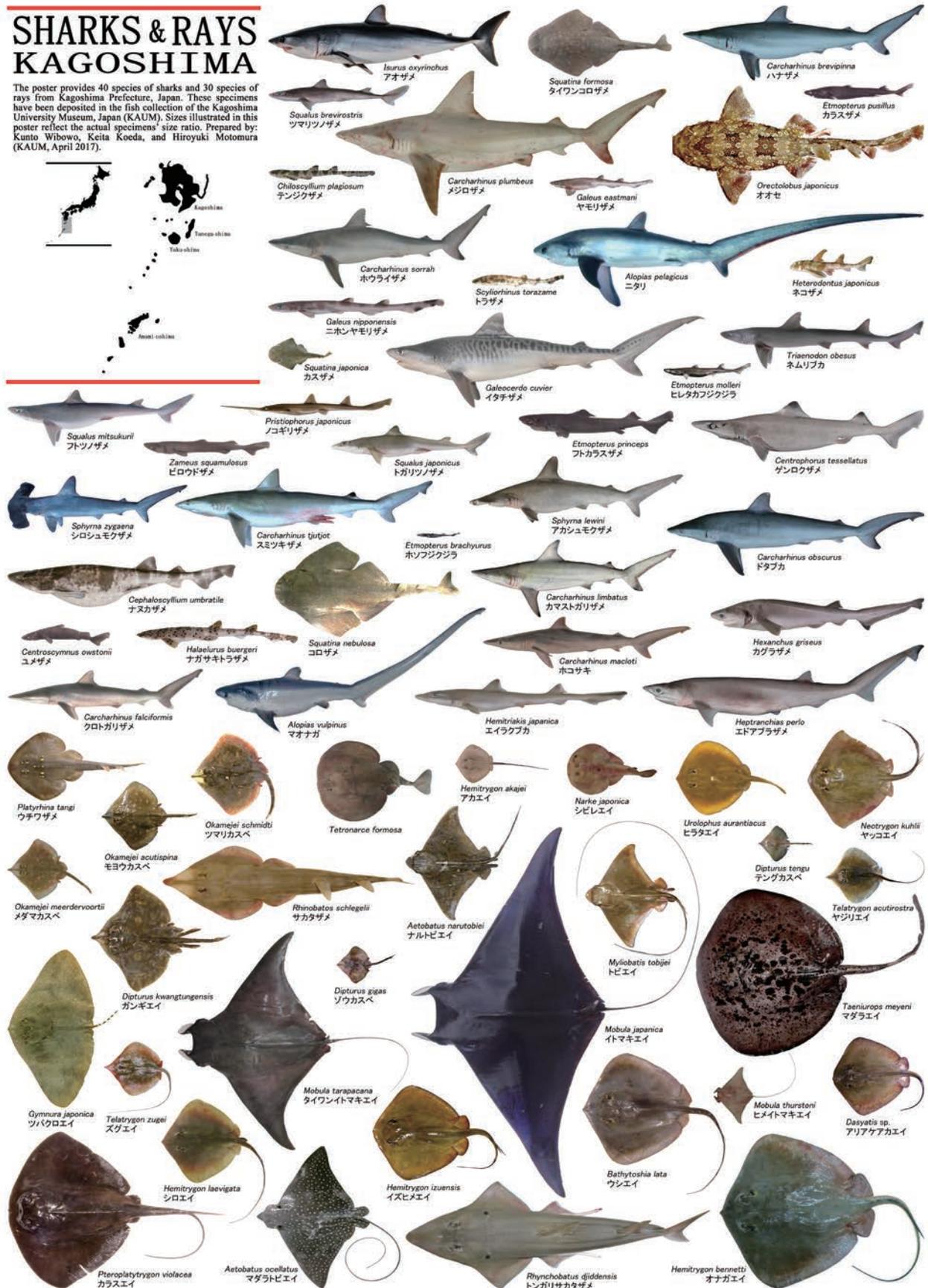
魚類の名称はすべて標準和名と枕崎市での地名(括弧内の名称)で表記しています。
 括弧がない魚類は枕崎市での地名がありません。
 掲載されている魚類の画像はすべて鹿児島水族博物館と鹿児島大学総合研究博物館の画像データベースに登録されています。
 掲載されている魚類(ロウニンアジを除く)の標本はすべて鹿児島大学総合研究博物館に登録されています。
 このポスターに掲載されているすべての画像の無断転載・転用を禁止します。

撮影・編集：岩坪光樹(鹿児島県立総合博物館) 監修：本村高之(鹿児島大学総合研究博物館)
 協力：枕崎市漁業協会のほか、枕崎市ついで魚類販売促進協会、山立水産、枕崎魚センター、岩戸商店、眞田鮮魚、山口鮮魚店、松元水産、まるごと、中野商店、白瀬鮮魚店
 制作・著作：鹿児島県立総合博物館 鹿児島大学総合研究博物館

12 魚類下敷きデータ

SHARKS & RAYS KAGOSHIMA

The poster provides 40 species of sharks and 30 species of rays from Kagoshima Prefecture, Japan. These specimens have been deposited in the fish collection of the Kagoshima University Museum, Japan (KAUM). Sizes illustrated in this poster reflect the actual specimens' size ratio. Prepared by: Kunto Wibowo, Keita Koeda, and Hiroyuki Motomura (KAUM, April 2017).



鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.17

2017

2019.03.29

鹿児島大学総合研究博物館 The Kagoshima University Museum
890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan
Printed in Japan